

自閉スペクトラム症傾向の性犯罪者の子どもへの性的関心 に関する研究

研究代表者

人間環境大学 山脇 望美

共同研究者

性障害専門医療センター (SOMEK) 福井 裕輝

性障害専門医療センター (SOMEK) 玉村 あき子

【まえがき】

<子どもと犯罪>

平成 29 年 6 月、刑法の一部を改正する法律が成立し、従来の強姦が強制性交等に改められ、強制性交等の認知件数は、平成 15 年に 2472 件を記録した後、減少傾向を示していた。しかし、平成 29 年は 1109 件となり、前年度よりも 120 件増加、平成 30 年は 1307 件となった (法務省法務総合研究所, 2018; 法務省法務総合研究所, 2019)。警察庁生活安全局少年課 (2022) によると、令和 3 年における児童買春事犯等児童買春、淫行させる行為、みだらな性行為等の検挙件数・検挙人員・被害児童数は、それぞれ 2,330 件、1,700 人、1,504 人で、いずれも減少傾向にある。一方で、令和 3 年における児童ポルノ事犯の検挙件数・検挙人員・被害児童数はそれぞれ 2,969 件、1,989 人、1,458 人で、いずれも増加傾向にある。子どもを対象とした性犯罪は年々増加しており、2020 年は、青少年保護育成条例に基づく淫らな性行為等における被害児童数が 1056 名を示した (警察庁生活安全局少年課, 2022)。また、児童ポルノ事犯の被害児童数も増えており、男女あわせた被害児童数は、令和元年度には 1559 名となった (警察庁生活安全局少年課, 2022)。被害女児の数は、1350 名となり 2019 年と比較すると増加率は 17.2%を示した (警察庁生活安全局少年課, 2022)。一方で、被害男児の数は、令和元年度には 209 名となり増加率は 68.5%であった (警察庁生活安全局少年課, 2022)。2012 年の 65 名と比較すると、年々、被害男児の数が顕著に増加しているといえる。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの犯罪傾向とは大きく異な

った人々の不安や窮状につけ込んだ犯罪が数多く発生するようになった。具体的にどのような犯罪が横行したのかについて、犯罪白書(2022)を参考にする。1つめは、違法に新型コロナウイルス感染症予防や治療の効果をうたった広告を行うなどの保健衛生事犯(薬事関係事犯違反等に係る事犯をいう)、医事関係事犯(医師法違反、歯科医師法違反等に係る事犯をいう)及び公衆衛生関係事犯(食品衛生法違反等に係る事犯をいう)である。厚生労働大臣の承認を受けていない医薬品について「新型コロナウイルスに抑制効果がある。」などと薬効をうたう広告をした事案や、厚生労働大臣の許可を受けずに製造された医薬品の販売等をした事案等の医薬品医療機器等法違反事件、医師免許を持たない者が、同感染症に関するPCR検査のための検体採取に当たり、医療行為を行った医師法違反事件等が発生した。同感染症に関連した保健衛生事犯の検挙事件数は、令和2年は14件、3年は7件あった。2つめは、新型コロナウイルス感染症に関連した様々な事象を口実とする手口による特殊詐欺を始めとした詐欺事案である。行政機関の職員を名のる男から、同感染症関連の給付金の振込みに通帳等が必要であるから、職員を受取に向かわせる旨の電話を受けた事案や、息子を名のる男から、「会社を辞めた人が取引先から1,000万円を借りたが、コロナでうまくいかず行方不明になった。保証人の自分が返さないといけなくなった。」などと電話を受け、現金300万円をだまし取られた事案等が発生した。同感染症の感染拡大下において確認された特殊詐欺の予兆電話も様々なものがあり、「コロナの検査キットを送りますので家族構成を教えてください。」などと言って、新型コロナウイルス検査をかたったもの、「ワクチンが接種できるようになりました。後日返還するので、まず10万円を振り込んでください。」などと言って、ワクチンの優先接種をかたったもの、「コロナで会社が困っていれば500万から3,000万まで融資します。」などと言って、融資をかたったものなどが全国で相次いで確認された。これら同感染症に関連した特殊詐欺事案の認知件数は、令和2年は55件(被害額は約1億円)、3年は44件(被害額は約1億1,000万円)であり、検挙件数及び検挙人員は、2年は検挙件数13件、検挙人員16人、3年は検挙件数4件、検挙人員7人だった。また、特殊詐欺以外にも、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、マスクが品薄状態になった際には、インターネット上のショッピングサイトにおいてマスクの販売をかたり、利用者が代金を支払っても商品を送ってこない事案等も確認された。3つめは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者等を対象とした違法な高金利貸付けの事案等のヤミ金融事犯(無登録・高金利事犯(貸金業法違反(無登録営業)、出資法違反(高金利等)及びヤミ金融関連事犯(貸金業に関連した犯罪収益移転防止法違反、詐欺、携帯音声通信事業者による契約者等の本人確認等及び携帯音声通信役務の不正な利用の防止に関する法律違反等に係る事犯をいう)である。新型コロナウイルス感染症の感染拡大下では、同感染症の影響等によって資金繰りが厳しくなった経営者に対し、法定利息を大幅に超える利息を受領する約定で金銭を貸し付ける契約をした出資法違反等の事件も発生しており、同感染症に関連したヤミ金融事犯の検挙事件数及び検挙人員は、令和2年は検挙事件数5件、検挙人員23人、3年は検挙事件数4件、検挙人員11人であった。4つめは、新型コロナウイルス感染症に関連したサイバー犯罪

等がある。新型コロナウイルス感染症の感染拡大下では、いわゆるフィッシング（実在する企業・団体等を装って電子メールを送り、その企業・団体等のウェブサイトに見せかけて作成した偽のウェブサイト（フィッシングサイトを受信者が閲覧するよう誘導し、当該サイトでクレジットカード番号や識別符号を入力させて金融情報や個人情報等を不正に入手する行為）の目的で、行政機関を装い、ワクチン接種や給付金の申請に関連した不審な電子メールを送付してフィッシングサイトへ誘導するなど、同感染症の感染拡大に乗じたサイバー犯罪やその疑いがある事案の発生も確認された。同感染症に関連するサイバー犯罪であると疑われる事案は、令和2年は887件、3年は257件確認された。

以上のように、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの犯罪傾向とは大きく異なった犯罪が多数発生するようになり、刑法犯、特に性犯罪についても変化がみられた。犯罪白書(2022)によると、窃盗を除く刑法犯について、主な罪名ごとに令和元年から3年までの認知件数の推移を月別に比較して見ると、強制わいせつでは、令和2年4月（前年同月比36.6%減）、5月（同46.1%減）が顕著に減少し、強制性交等では、2年5月（同30.6%減）が顕著に減少した。緊急事態宣言が初めて発出された令和2年4月から5月について、平成27年から令和元年までの同月の認知件数の平均値を100とした場合における各月の指数を見ると、強制わいせつは2年4月（49.5%）及び5月（43.3%）、強制性交等は令和2年5月（77.0%）が、それぞれ顕著に少なかった。新型コロナウイルス感染症の影響により、電車や街中などでの人々の接触が制限されたことから、性犯罪を行う機会が少なくなり、性犯罪の発生が減少したと考えられる。

しかしながら、海外においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う都市封鎖（ロックダウン）下において、家庭内暴力が増加したという調査結果もある。家族が自宅内で一緒に過ごす時間が増えたことが要因の一つと考えられている。犯罪白書(2022)によると、我が国においては、児童虐待の検挙件数が近年増加傾向にあり、配偶者からの暴力事案等の検挙件数についても近年高止まりを示している。令和2年度における保育所等（認可保育所、保育所型認定こども園、地域型保育事業所及びへき地保育所）の休園施設数と児童相談所における児童虐待対応件数の推移をみると、児童虐待相談対応件数は、時間の経過とともに増加傾向になり、令和3年3月では、24650件もの相談が寄せられている。ただし、休園施設数が最も多かった令和2年4月の103.8施設の際の児童虐待対応件数は1万5,524件であり、休園施設数が最も少なかった6月の1.3施設の際の児童虐待対応件数は1万8,480件であったため、児童虐待対応件数と保育所等の休園施設数に何からの関連があるとは言い切れない。しかし、平成21年度の虐待件数が5万件程度であり、令和2年度の虐待件数が20万5千件程度であることを考慮すると、明らかに虐待件数は増加傾向にあるといえる。

以上から、社会情勢の影響もあり、性犯罪は増減を繰り返しているが、以前、子どもを対象とした事件は発生しており、性犯罪に関する件数は頑健な低下はしておらず、子どもの性被害件数も1000件を超えていることから、子どもを対象とした犯罪には早急な介入が必要といえる。

＜性障害専門医療センター SOMECE＞

日本の性犯罪及び再犯予防のためには、医学的な治療も含め、性犯罪者の統一的・標準的な更生プログラムの更なる研究を進めて最も効果的で有効な方法を確立することが急務となっている。性犯罪加害者への対応策の一つとして、2006年に「NPO 法人性犯罪加害者の処遇制度を考える会 性障害専門医療センターSOMECE (性障害専門医療センター SOMECE, 2006)」の運用が開始された。

性障害専門医療センターでは、様々な活動を通じて社会貢献を目指している。「個人の治療」では、性犯罪者・性的嗜好障害者を対象にグループプログラムを通じた治療を提供する。また、「専門家とのネットワークづくり」では、医師、臨床心理士、弁護士、矯正施設職員、その他の専門家と協同作業をすることで、性犯罪者・性的嗜好障害者に対し、幅広い援助活動をする。さらに、「社会に向けた情報発信」では、性犯罪者・性的嗜好障害者に関するリスクアセスメントツール、書籍などの出版活動を通し、一般社会に幅広く情報発信する。加えて、「実証にもとづくプログラムの提案」では、性犯罪者・性的嗜好障害者を対象とした実証にもとづく治療パッケージを提供する。このような活動を通じて、性障害専門医療センターでは、認知行動療法をメイン治療として実施している。認知行動療法では、問題を抱えている人の「認知＝物事の捉え方や思考」と「行動」に焦点を当て、徐々に自分自身のことや自身の抱える問題を理解していき、その問題への対処法や解決法を一緒に探っている。認知、考え方にも個人の癖があり、自分自身でその癖に気づき、不適切なものは修正していったり、柔軟な考え方ができるようになることが目指されている。そのため、性障害専門医療センターでは、DSM-5（国際的な診断基準）におけるパラフィリア障害群に該当するような性的問題行動（盗撮、痴漢、露出、強制わいせつ、覗き、強姦、児童ポルノ、家庭内でのわいせつ行為等）に対する再犯防止プログラムを実施している。「自らの犯罪がどのような条件下で発生する（しやすい）のかを学び、気付くことで、再犯防止の取り組みを考えることに役立った。」、「自分のおちいってしまっていた認知の歪みに気付く事が出来、それに対する対処の方法を学べました。」といった性障害専門医療センターに来談した人々の意見もあり、再犯防止プログラムの効果も示されている。

そこで、本研究では、性障害専門医療センターと共同のもと、性犯罪を防止、抑制するためにも、どのような心理的な要因が性犯罪を促進しているのかについて検討していく。

＜精神疾患と犯罪＞

近年、犯罪や非行の原因について論じる際に、何らかの精神疾患との関連を考慮される場合が多くなっている。例えば、犯罪白書 (2022) によると、令和3年における精神障害者等（精神障害者及び精神障害の疑いのある者をいう）による刑法犯の検挙人員と、検挙人員総数に占める精神障害者等の比率を罪名別に見た結果、同年における刑法犯の検挙人員総数のうち、精神障害者等の比率は、0.7%（検挙人員総数 175041 名、精神障害者 1254 名（精神障害者 941 名、精

神障害の疑いがある者 313 名))を示した。しかし、罪名別で見ると、放火(11.4%)と殺人(6.4%)が他の犯罪(強盗 0.7%, 強姦性交等・強制わいせつ 0.6%, 傷害・暴行 0.9%, 脅迫 2.0%, 窃盗 0.3%, 詐欺 0.2%, その他 1.3%)よりも高い数値を示し、犯罪に関して精神疾患が何らかの影響を与えていることは明らかである。また、令和 3 年における入所受刑者及び少年院入院者の人員のうち、精神疾患を有すると診断された者の人員と、入所受刑者及び少年院入院者の人員の総数に占める比率を精神障害の種別ごとに見ると、発達障害(入所受刑者 1698 名(10.5%)*その他の精神障害の区分であるが発達障害を含む、少年院入院者 231 名(16.8%))が他の精神疾患(知的障害:入所受刑者 297 名(1.8%),少年院入院者 95 名(6.9%),人格障害:入所受刑者 66 名(0.4%),少年院入院者 4 名(0.3%),神経症性障害:入所受刑者 414 名(2.6%),少年院入院者 9 名(0.7%),その他の精神障害:少年院入院者 74 名(5.4%))よりも高い数値を示している。

したがって、犯罪の原因を明らかにし、再犯防止に効果的な教育や治療を確立するためには、犯罪や非行に少なからず影響を及ぼしている精神疾患の影響を考慮することは重要であると考ええる。そこで、本研究では、自閉スペクトラム症傾向と犯罪との関連について検討する。

<自閉スペクトラム症傾向と性犯罪>

自閉スペクトラム症傾向とは、継続的な社会的コミュニケーションおよび相互関係における障害と、反復行動、興味の限局といった特徴と定義されている (American Psychiatric Association, 2013)。これらの特徴を測定するために、Baron-Cohen, Wheelwright, Skinner, Martin, & Clubley (2001) は、自閉スペクトラム症指数 (The Autism-Spectrum Quotient) を開発した。自閉スペクトラム症指数は、自閉スペクトラム症傾向の特徴を示す三つ組の領域(社会性の障害, コミュニケーションの障害, 想像力の障害)と認知的異常性の領域の内容から構成された「社会的スキル」「注意の切り替え」「細部への注意」「コミュニケーション」「想像力」により健常範囲の知能を持つ成人の自閉症傾向(特性)の程度を測定できる尺度である。

犯罪における自閉スペクトラム症傾向について、近藤・渕上 (2005) は、質問紙調査により、自閉スペクトラム症傾向に該当すると判断された鑑別所に入所している少年が、武器を使用して攻撃したり、動物を虐待したり、強奪をしたりといった経験が多いことを示している。また、アスペルガー障害の診断を受けた非行少年を対象に非行の発生基盤について検討した熊上 (2006) は、DSM-4 の診断基準にある「局限された興味関心」や「対人相互性の障害」が起因となって、人混みの中で予期せぬ状況に直面してパニックを起こした結果、周囲に危害が及ぶケースがあることを示している。さらに、「対人関心・接近時の過誤」のため、仲間や集団・異性などに関心が高まった時に、適切な接近や参与の方法が分からない故に、悪意のないまま法に抵触してしまう場合があることも示した。

また、自閉スペクトラム症の診断を受けた性犯罪者は、性的関心を抱きやすく (Hellemans, Colson, Verbraeken, Vermeiren, & Deboutte, 2007)、自閉スペクトラム症の特徴である反復的な行

動パターンやコミュニケーションスキルの乏しさ、共感性の欠如、人や物への執着等が、逸脱した性行為を遂行させることも示されている (Mogavero, 2016)。そのため、自閉スペクトラム症の診断を受けた性犯罪者には、性犯罪を促進する要因への介入が提案されてきた (Sevlever, Roth, & Gillis, 2013)。しかし、子どもを対象とした性犯罪研究では、子どもに性的関心を持つ自閉スペクトラム症の診断を受けた性犯罪者の公表、接触に限界があること (Hellemans, Roeyers, Leplae, Dewaele & Deboutte, 2010)、子どもへの性的関心が環境要因に規定されとの知見が多いことから (Fazio, 2018)、自閉スペクトラム症の性犯罪者のどのような特徴が子どもへの性的関心を高めるのかについて明らかにされてこなかった。そのため、子どもに性的関心のある自閉スペクトラム症の性犯罪者への介入は難しい現状となっている。そこで、本研究では、自閉スペクトラム症傾向の人々における性犯罪に関連する諸要因について検討する。

＜精神鑑定と犯罪＞

心神喪失者等医療観察制度は、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者に対し、継続的かつ適切な医療及びその確保のために必要な観察・指導を行うことによって、病状の改善とこれに伴う同様の行為の再発の防止を図り、その社会復帰を促進することを目的として、心神喪失者等医療観察法に基づいて運用されている (犯罪白書, 2022)。心神喪失者等医療観察制度の対象となるのは、1: 対象行為 (放火、強制わいせつ及び強制性交等、殺人、強盗 (これらの未遂を含む) 並びに傷害) を行い、心神喪失又は心神耗弱であることが認められ、不起訴処分となった者、2: 対象行為について、心神喪失を理由に無罪の確定裁判を受けた者、又は、心神耗弱を理由に刑を減軽する旨の確定裁判 (懲役又は禁錮の刑を言い渡し、その刑の全部の執行猶予の言渡しをしない裁判であって、執行すべき刑期があるものを除く。) を受けた者である (犯罪白書, 2022)。これらの対象者については、原則として、検察官の申立てにより審判が行われ、その審判は、地方裁判所において、裁判官と精神保健審判員 (精神科医) の合議体により行われ、心神喪失者等医療観察法に基づく医療の要否・内容が決定される (犯罪白書, 2022)。審判に当たり、裁判所は、保護観察所の長に対し、対象者の生活環境の調査を求めることができる (犯罪白書, 2022)。犯罪白書 (2022) によると、令和 3 年における生活環境の調査の開始件数は、307 件であった。検察官申立人員をみると、放火 90 件のうち不起訴 88 件 (2 件全部執行猶予等)、強制性交等 14 件のうち不起訴 13 件 (1 件全部執行猶予等)、殺人 84 件のうち不起訴 73 件 (1 件無罪、10 件全部執行猶予等)、傷害 115 件のうち不起訴 109 件 (2 件無罪、4 件全部執行猶予等)、強盗 7 件のうち不起訴 7 件となっている。この心神喪失者等医療観察制度の際に重要となるのが精神鑑定である。

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所では、精神鑑定で一般的に使用する責任能力の心理学的要素である弁識能力と制御能力の判定に有効である心理検査として、知能を測定する WAIS-III (ウェクスラー成人知能検査第 2 版)、記憶を測定する WMS-R (Wechsler Memory Scale-Revised) 日本版ウェクスラー記憶検査法、前頭葉機能を測定する Behavioral Assessment of

the Dysexecutive Syndrome (遂行機能症候群の行動評価) ; BADS 日本版, 前頭葉機能に関する行動評価尺度 the Frontal Systems Behavior Scale (FrSBe), 意志決定を測定する Iowa Gambling Task, 情動および共感性を測定する 6 情動検査と Interpersonal reactivity Index ; IRI (多次元的共感測定尺度), 「心の理論」を測定する The 'Reading the Mind in the Eyes' Test と False Recognition Test および Faux Pas Recognition Test, 衝動性および攻撃性を測定する Baratt impulsivness scale 11th version (BIS-11) と The Buss-Perry Aggression Questionnaire (BAQ) などを挙げている (吉川, 2010)。責任能力は犯行時点での能力を問題にしていることから, 検査時点での能力との間に差異が生じる可能性は否めないが, 被鑑定人が潜在的に有している全般的な弁識能力と制御能力は, これらのデータからかなり具体的に推測することが可能であると示されている (吉川, 2010)。そこで, 本研究では, 精神鑑定でも一般的に利用されている前頭葉機能に関する行動評価尺度 the Frontal Systems Behavior Scale (FrSBe), 情動を測定する 6 情動検査, 「心の理論」を測定する The 'Reading the Mind in the Eyes' Test, 衝動性および攻撃性を測定する Baratt impulsivness scale 11th version (BIS-11) と The Buss-Perry Aggression Questionnaire (BAQ) を子どもに性的関心のある自閉スペクトラム症傾向の人々における性犯罪に関連する諸要因として検討する。

<レイプ神話と性犯罪>

性犯罪について検討する際には, レイプ神話についても考慮しなければならない。レイプ神話とは, レイプを合理化する複合的な信念であるが, その核となるものは, 「女性が暴力的性を好む」や「女性は潜在的にレイプされることを望んでいる」といった誤った女性性の観念である (大淵, 1991)。また, 「女性はそもそもレイプされることを望んでいる」, 「女性はレイプされることで快感を味わうものだ」, 「女性の体に触るのは挨拶代わりだ」, 「レイプ事件の多くは女性の捏造だ」といった誤った信念も挙げられている (越智, 2013)。このような観念や信念により, レイプ神話は, レイプ行動を現実 to 促す一つの要因として働くことが示されており (大淵・石毛・山入端・井上, 1985), 多くの性犯罪者がレイプ神話と親和性の高い信念を持ち, それが性犯罪と関連していると指摘されている (Malamuth, 1981)。レイプ神話がレイプ行動を動機づける理由として, 大淵他 (1985) は, 性犯罪者が性に対しては開放的な態度を持ちながら, 両親からの暴力を多く経験していることから自分の男性的性には無力感を抱いており, この性役割に関する劣等感を克服するために, 暴力を用いて女性を性的に支配する行動に及ぶと指摘する。また, このとき, レイプ神話は, 彼らの行動が結局は女性の願望に叶ったものであるとの信念を抱かせ, 彼らの支配感と男らしさの確信をより高める効果があるとされる。このようなレイプ神話に基づき, 田口 (2015) は, 「強引なセックスをする男性に女性は憧れを抱いている」との性犯罪神話において, 女兒に対する性的興味を容認する群は, 容認しない群よりも暴力的性の容認と女性性欲の誤認, 女性に対する敵意の得点が高いことを示した。また, レイプ神話は, 性的に攻撃的な人々の性的スクリプトに影響を与える可能性があることも明らかにされている (Ryan, 2011)。さらに, レイプ神話を支持する新聞の見出しを読んだ大学生は, レイプ神話以外

の新聞の見出しを読んだ大学生よりもレイプを支持する態度を保つことも分かっている (Franiuk, Seefeldt, & Vandello, 2008)。以上の研究は、自閉スペクトラム症の人々の性犯罪とレイプ神話との関連を検討するものではない。しかしながら、レイプ神話が性犯罪を促進しているという指摘は、物事を字句通りにとらえてしまいがちな自閉スペクトラム症の人々にとって、レイプ神話が犯罪の遂行に非常に影響力のある情報となる可能性を示唆する。そこで、本研究は、子どもに性的関心のある自閉スペクトラム症傾向の人々における性犯罪について、レイプ神話の観点からも検討を加えることとする。

【目的】

本研究では、自閉スペクトラム症傾向の性犯罪者の人々の子どもへの性的関心を促進する諸要因について明らかにする。具体的に、自閉スペクトラム症傾向の人々は、表情を正確に認識できないことから、ポルノ出演者の年齢などを見誤り、子どもに関心を持つ可能性があるため、前頭葉の機能障害や表情認知の乏しさと子どもへの性的関心の関連について明らかにする。また、レイプ神話の信仰などの認知の歪みも性犯罪を促すことから、子どもへの関心もレイプ神話の信仰などの認知の歪みにより高められるのかを検討する。さらに、自閉スペクトラム症傾向の性犯罪者の衝動性や攻撃性が子どもへの性的関心を高めているのかについても検討する。

以上から、まず、自閉スペクトラム症傾向の該当者における前頭葉機能の低下や他者の視線や表情の認知の乏しさが子どもへの性的関心を促すのかを明らかにする（研究 1）。次に、自閉スペクトラム症傾向の該当者におけるレイプ神話への信仰という認知の歪みが子どもへの性的関心を高めるのかについて明らかにする（研究 2）。さらに、自閉スペクトラム症傾向の該当者における衝動性や攻撃性の高まりが子どもへの性的関心を促しているのかについて検討する（研究 3）。最後に、自閉スペクトラム症傾向の該当者において、以上のすべての変数が子どもへの性的関心を促すのかも検討する（研究 4）。

【方法】

＜参加者＞

性障害専門医療センターに受診した男性 1549 名を対象とした。記述統計、相関分析、t 検定においては、欠損のあるデータを含めた 1549 名（平均年齢 34.4 歳、 $SD = 11.7$ ）を対象とした。また、研究 1～研究 4 の検討においては、欠損のあるデータは除外した。なお、本研究では、2006 年の性障害専門医療センター設立時からのデータ使用の許可を得ているため、本研究で検討する質問紙尺度を踏まえている 2018 年以降のデータを分析対象とした。

＜測度＞

自閉スペクトラム症傾向

自閉スペクトラム症傾向が測定可能な日本語版自閉スペクトラム症指数 (The Autism-Spectrum Quotient: 若林・東條・Baron-Cohen・Wheelwright, 2004) を使用した。この測度は、社会的スキル、注意の切り替え、細部への注意、コミュニケーション、想像力といった下位尺度により測定される。50 項目により構成され、4 件法 (1: あてはまる, 2: どちらかといえばあてはまる, 3: どちらかといえばあてはまらない, 4: あてはまらない) により回答を求める。なお、本研究では、質問内容の理解を促すために、漢字には全てルビをふった。採点方法は、各項目で自閉スペクトラム症傾向とされる側に該当する回答を選択すると 1 点が与えられる。具体的に、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」(逆転項目では、「あてはまらない」、「どちらかといえばあてはまらない」) という回答に 1 点を与える。各下位尺度は 10 項目であり、本研究では合計得点を使用している。合計得点が高得点であるほど自閉スペクトラム症の特徴を顕著にもつことを示す。先行研究におけるこの尺度の信頼性係数は、合計得点 $\alpha = .81$, 社会的スキル $\alpha = .78$, 注意の切り替え $\alpha = .63$, 細部への注意 $\alpha = .57$, コミュニケーション $\alpha = .64$, 想像力 $\alpha = .51$ とされている (若林他, 2004)。また、再テスト信頼性と内的妥当性は、先行研究において確認されている (Baron-Cohen, et al., 2001; 若林他, 2004)。

前頭葉機能

前頭葉機能に関する行動評価が測定可能な Frontal Systems Behavior Scale 日本語版 (住吉・上田・大東・村井, 2007) を使用した。この測度は、アパシー、脱抑制、遂行機能障害の 3 つの下位尺度から構成される。質問項目は、46 項目で構成され、5 件法 (1: ほとんどあてはまらない, 2: あまりあてはまらない, 3: たまにあてはまる, 4: だいたいあてはまる, 5: 非常によくあてはまる) により回答を求めた。なお、本研究では、質問内容の理解を促すために、漢字には全てルビをふった。合計得点が高得点であるほど前頭葉機能の障害が高度であることを示す。先行研究における各下位尺度と総得点の信頼性係数は、0.72~0.88 となっている (住吉他, 2007)。また、先行研究において、信頼性と妥当性は確認されている (住吉他, 2007)。

情動認知

情動認知を測定するために、Ekman & Friesen (1976) と Matsumoto & Ekman (1988) から選出された基本 6 情動 (怒り・嫌悪・恐怖・幸福・悲しみ・驚き) の表情写真を使用した。課題は、表情写真を呈示し、これについて適切な言語ラベル (1: 嫌悪, 2: 恐怖, 3: 驚き, 4: 怒り, 5: 悲しみ, 6: 幸福) を 1 つ選択するというものであった。参加者は、よく考えて最も適切なラベルを 1 つ選択し、回答するように求められた。それぞれの言語ラベルの意味については、回答前に説明文として記載した。設問は、全部で 48 項目あった。

表情認知

表情認知を測定するために、Baron-Cohen, Wheelwright, Hill, Raste, & Plumb (2001) が開発した RMET を使用した。RMET は、人物の目とその周辺だけを手掛かりに、その人物の複雑な心理状態を認識する能力を測定するテストであるため、特に非言語的情報からの読み取り能力を測定していると捉えられている。課題は、36 題で構成される。人物の目の写真を表示した上で、

回答のための選択肢として、4つの感情内容を提示した。参加者に対しては、はじめに、設問に関する説明文と教示と例題を提示し、課題内容について参加者の理解を促した上で回答を求めた。RMETの得点は、正答の場合を1点とし、36点満点とした。分析には、36題の合計得点を用いた。

衝動性

衝動性を測定できる改訂日本語版 BIS-11 (小橋・井田, 2013) を使用した。この測度は、衝動的行動、計画性のなさ、自己制御の欠如、熟慮の欠如の4つの下位尺度から成る。なお、本研究では、質問内容の理解を促すために、漢字には全てルビをふり、表現に若干の修正を加え、回答も4件法(1: まれ/決してない, 2: 時に, 3: しばしば, 4: ほとんどいつも/いつも)に改変した。先行研究におけるこの尺度の信頼性係数は、衝動的行動 $\alpha = .78$, 計画性のなさ $\alpha = .62$, 自己制御の欠如 $\alpha = .64$, 熟慮の欠如 $\alpha = .61$ となっている (小橋・井田, 2013)。また、先行研究において、内的整合性・再検査信頼性および構成概念妥当性が確認されている (小橋・井田, 2013)。

攻撃性

攻撃性の測定可能な日本版 BussPerry 攻撃性質問紙 (安藤・曾我・山崎・島井・嶋田・宇津木・大芦・坂井, 1999) を用いた。この測度は、24項目から構成され、5件法により回答を求める。攻撃性は、短気と敵意、身体的攻撃、言語的攻撃により測定される。合計得点が高得点であるほど攻撃性が強いことを示す。なお、本研究では、質問内容の理解を促すために、漢字には全てルビをふった。先行研究におけるこの尺度の信頼性係数は、合計得点 $\alpha = .81$, 短気 $\alpha = .74$, 敵意 $\alpha = .72$, 身体的攻撃 $\alpha = .78$, 言語的攻撃 $\alpha = .70$ であり、収束的妥当性と弁別的妥当性が確認されている (安藤他, 1999)。

レイプ神話に関する認知

Bumby (1996) のレイプ神話に関する認知の尺度を翻訳して使用した。原著者によるバックトランスレーションは確認済みである。この尺度は、「女性がセックスへの誘いに対して強く抵抗しなければ、その彼女はセックスをしても構わないと思っている。」、「レイプされた女性は、やがてはレイプされたことを忘れ、自分の人生を歩み続けるだろう。」、「セックスをする過程において、男性が女性を殴ったり叩いたりしない限り、女性にセックスを強要することはそれほど悪いことではない。」といった36項目により構成される。回答は、4件法(1: 全くそう思わない, 2: あまりそう思わない, 3: そう思う, 4: とてもそう思う)により求める。合計得点が高得点であるほどレイプ神話に関する認知の得点が高いことを示す。なお、本研究では、質問内容の理解を促すために、漢字には全てルビをふった。先行研究におけるこの尺度の信頼性係数は、 $\alpha = .97$ であり、再テスト信頼性と内的妥当性が確認されている (Bumby, 1996)。

子どもへの性的関心

Bumby (1996) の子どもへの性的関心の尺度を翻訳して使用した。原著者によるバックトランスレーションは確認済みである。この尺度は、「子どもと性的行為をするために力(強要)を使わなければ、それ程子どもに危害を加えてはいない。」、「複数の子どもとの性的関係は、大部分

が大人同士の性的関係と似ている。」、「子どもの中には、大人とセックスしたいと望んでいる子もいる。」といった 38 項目により構成される。回答は、4 件法（1：全くそう思わない，2：あまりそう思わない，3：そう思う，4：とてもそう思う）により求める。合計得点が高得点であるほど子どもへの性的関心の得点が高いことを示す。なお，本研究では，質問内容の理解を促すために，漢字には全てルビをふった。先行研究におけるこの尺度の信頼性係数は， $\alpha = .97$ であり，再テスト信頼性と内的妥当性が確認されている (Bumby, 1996)。

< 手続き >

本研究では，性障害専門医療センターから提供された匿名化されたデータを用いて二次分析を実施した。なお，データは，性障害専門医療センターでの治療的介入が始まる前に取得されている。また，回答したデータの利用に関しては，事前に参加者と署名入りの文書を取り交わし，本人の承諾を得ている。

< 分析方法 >

統計ソフト SPSS version 22.0 を使用し，記述統計，相関分析，t 検定，単回帰分析，重回帰分析により検討した。

< 倫理審査による承認の有無 >

本研究は，名古屋大学大学院教育発達科学研究科の倫理審査委員会による承認を得て実施した (19-1264)。

< 共同研究者相互との関係 >

共同研究者である性障害専門医療センターの福井裕輝氏（博士（医学））は，申請者（研究代表者）を性障害専門医療センターの研究員として承認し，個人情報保護を踏まえたデータ使用を承諾した性障害専門医療センターの代表である。福井裕輝代表と性障害専門医療センターのマネージャーである玉村あき子氏（修士（心理学））は，質問紙調査により取得されたデータの分析，論文執筆，学会発表について申請者に指導を行なっている。

【結果】

< 記述統計 >

性障害専門医療センターに受診した男性 1549 名を対象とした。対象者の平均年齢は，34.4 歳 ($SD = 11.7$) だった (図 1)。平均年齢は 34 歳であったが，参加者の年齢の割合は，20 歳代後半から 30 歳代後半が最も多かった。

性障害専門医療センターに受診した男性 1549 名のうち，自閉スペクトラム症傾向の該当者について検討するために，自閉症スペクトラム指数日本語版尺度 (若林他, 2004) に基づいて，カ

ットオフポイントの 33 点を基準に分析を行った。その結果、年齢のデータに欠損のない対象者は、95 名だった。対象者の平均年齢は、35.1 歳 ($SD = 11.5$) だった (図 2)。平均年齢は 35 歳であったが、参加者の年齢の割合は、20 歳代から 40 歳代が最も多かった。一方で、自閉スペクトラム症傾向の非該当者で年齢のデータに欠損のない対象者は、1378 名だった。対象者の平均年齢は、34.4 歳 ($SD = 11.8$) だった (図 3)。平均年齢は 34 歳であったが、参加者の年齢の割合は、20 歳代後半から 30 歳代後半が最も多かった。

以上から、性障害専門医療センターの受診者は 20 歳代から 30 歳代がもっとも多いといえる。

図1 参加者の年齢

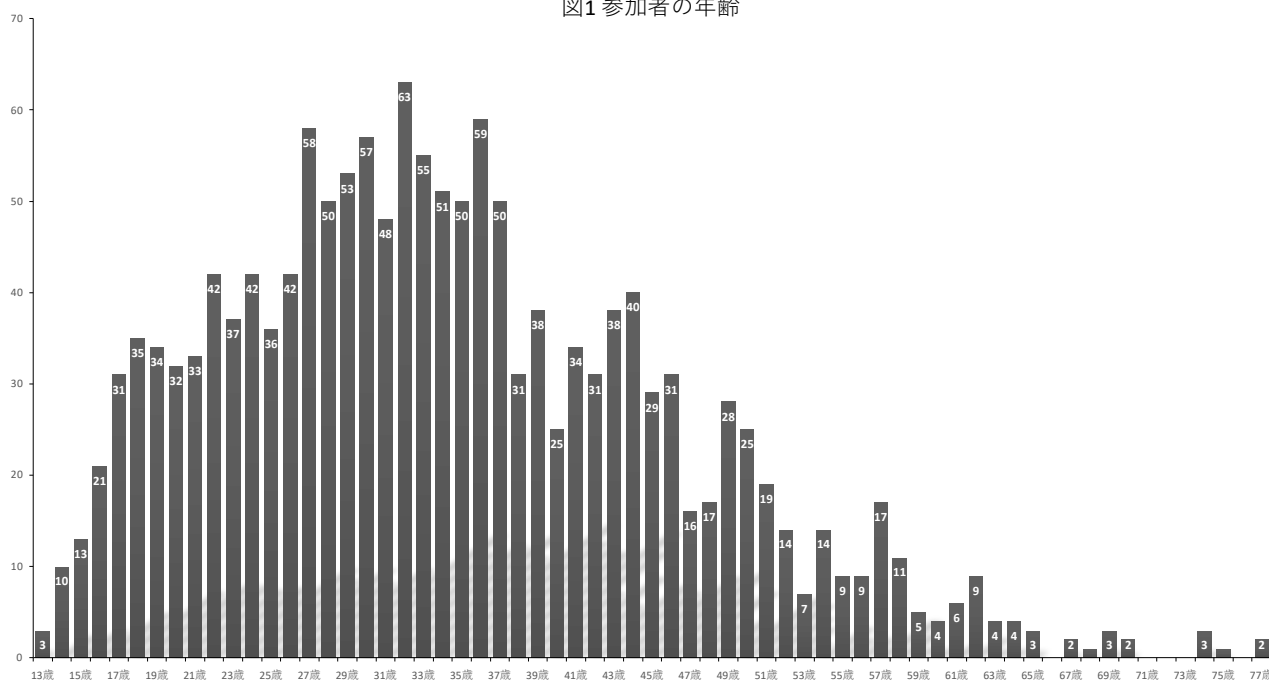


図2 自閉スペクトラム症傾向の該当者の年齢

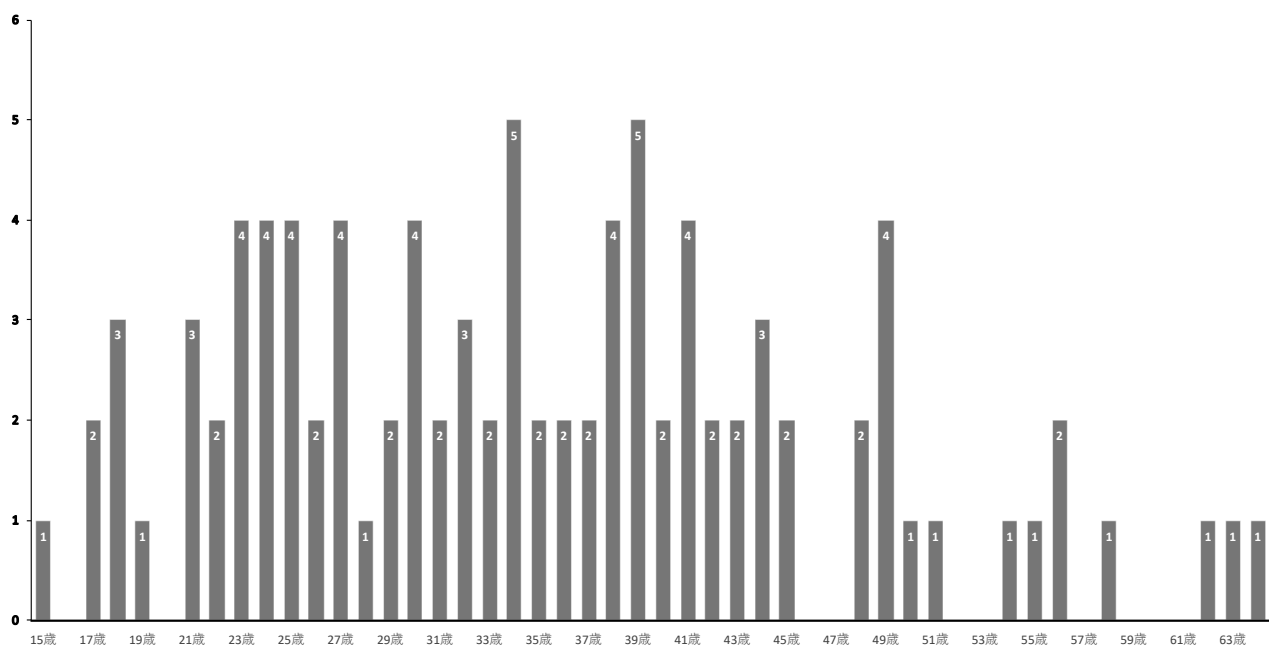
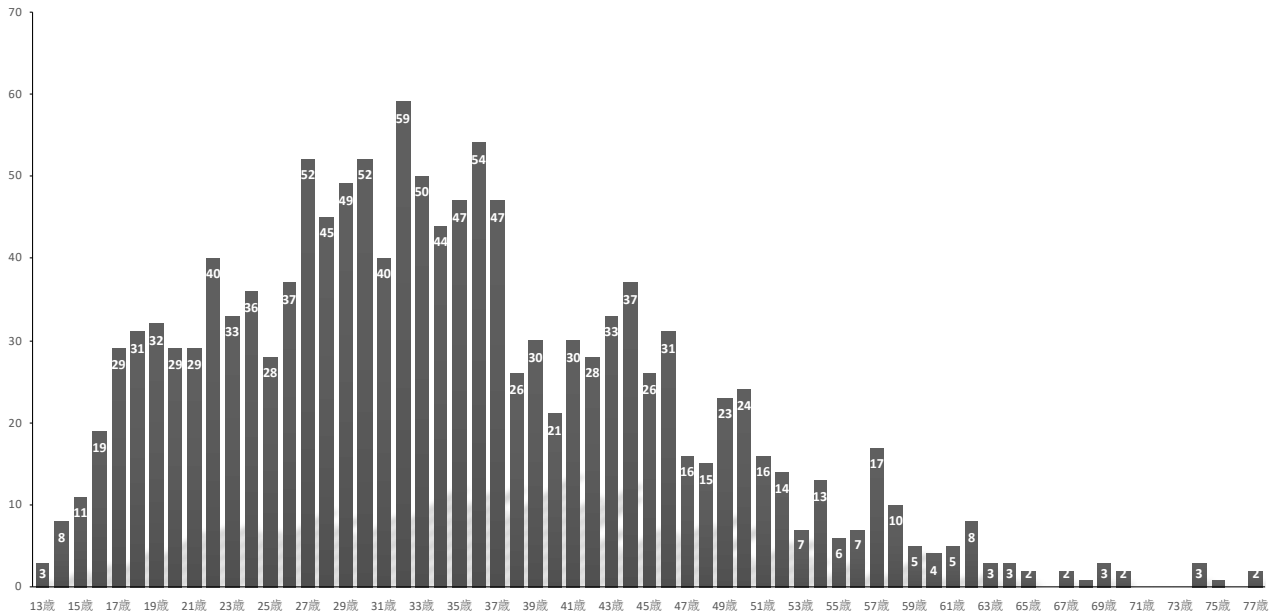


図3 自閉スペクトラム症傾向の非該当者の年齢



次に、全参加者、自閉スペクトラム症傾向の該当者、自閉スペクトラム症傾向の非該当者を対象に、本研究で利用した尺度における平均値と標準偏差を示した (表 1)。各尺度において欠損値が異なることから、各尺度の参加者数には、ばらつきがみられた。

全参加者において、自閉スペクトラム症傾向における先行研究 (若林他, 2004) と比較した。自閉スペクトラム症傾向における先行研究 (若林他, 2004) の男性参加者の結果では、自閉スペクトラム症傾向の合計は 19.1 点、社会的スキルは 3.7 点、注意の切り替えは 4.2 点、細部への注意は 4.7 点、コミュニケーションは 3.0 点、想像力は 3.4 点と示されていた。本研究では、自閉スペクトラム症傾向の合計は、21.2 点、社会的スキルは 4.5 点、注意の切り替えは 4.8 点、細部への注意は 4.0 点、コミュニケーションは 3.8 点、想像力は 4.1 点だった。細部への注意以外、先行研究よりも得点が高い結果となった。一方で、自閉スペクトラム症傾向の該当者の得点は、自閉スペクトラム症傾向の合計は 35.4 点、社会的スキルは 8.1 点、注意の切り替えは 7.4 点、細部への注意は 5.4 点、コミュニケーションは 7.7 点、想像力は 6.8 点となった。先行研究 (若林他, 2004) の成人の高機能自閉症あるいはアスペルガー症候群 (DSM などの客観的診断基準に基づいて、精神科医等の専門家によって自閉症ないしアスペルガー症候群という診断を受けている; 若林他, 2004) の結果では、自閉スペクトラム症傾向の合計は、37.9 点、社会的スキルは 8.3 点、注意の切り替えは 7.9 点、細部への注意は 6.2 点、コミュニケーションは 8.2 点、想像力は 7.4 点となった。そのため、性障害専門医療センターに受診している自閉スペクトラム症傾向の該当者は、成人の高機能自閉症あるいはアスペルガー症候群の診断を受けている人々よりも、比較的低い数値を示しているといえる。

表1 記述統計

	全参加者			自閉スペクトラム症傾向該当者			自閉スペクトラム症傾向非該当者		
	参加者数	平均値	標準偏差	参加者数	平均値	標準偏差	参加者数	平均値	標準偏差
自閉スペクトラム症傾向									
社会的スキル	1524	4.507	2.807	96	8.115	1.428	1389	4.268	2.707
注意の切り替え	1521	4.844	1.951	96	7.396	1.269	1389	4.665	1.869
細部への注意	1525	3.950	2.160	96	5.406	2.269	1389	3.849	2.123
コミュニケーション	1520	3.763	2.453	96	7.688	1.234	1389	3.498	2.289
想像力	1522	4.141	1.879	96	6.802	1.587	1389	3.961	1.753
自閉スペクトラム症傾向合計	1485	21.222	7.201	96	35.406	2.378	1389	20.241	6.338
前頭葉機能									
アパシー	1527	34.749	8.290	94	43.415	6.386	1376	34.227	8.050
遂行機能	1524	43.161	11.089	94	54.702	10.564	1376	42.346	10.693
脱抑制	1524	33.051	9.170	94	41.500	9.615	1374	32.458	8.841
前頭葉機能合計	1504	110.958	24.529	92	139.120	21.516	1358	109.067	23.493
情動認知									
嫌悪	1502	3.432	1.887	95	3.642	2.015	1348	3.434	1.877
恐怖	1509	3.528	2.325	94	3.245	2.188	1357	3.565	2.336
驚き	1514	7.731	0.602	93	7.688	0.722	1362	7.737	0.589
怒り	1504	4.439	1.911	93	4.559	1.891	1352	4.437	1.918
悲しみ	1504	6.850	1.356	93	6.570	1.297	1353	6.880	1.349
幸福	1512	7.855	0.573	93	7.807	0.472	1360	7.865	0.567
表情認知									
視線	1289	21.837	3.634	79	20.937	3.722	1164	21.967	3.603
衝動性									
衝動的行動	1528	18.403	4.377	95	20.305	4.484	1376	18.245	4.327
計画性のなさ	1530	9.685	2.597	93	10.075	2.630	1381	9.665	2.593
自己制御の欠如	1527	12.455	3.219	95	12.958	3.414	1376	12.419	3.205
熟慮の欠如	1531	9.844	2.309	95	10.390	2.429	1379	9.785	2.299
現実志向	1537	5.128	1.422	95	5.147	1.650	1386	5.132	1.405
落ち着きのなさ	1535	4.108	1.447	95	4.558	1.542	1384	4.069	1.434
衝動性合計	1503	59.641	10.303	93	63.312	10.562	1356	59.325	10.229
攻撃性									
身体的攻撃	1521	14.619	5.117	94	16.351	5.273	1372	14.488	5.103
短気	1525	13.809	4.667	94	17.160	4.935	1374	13.580	4.565
敵意	1515	17.235	4.894	94	21.383	5.212	1365	16.941	4.731
言語的攻撃	1525	14.543	3.693	94	13.404	4.033	1374	14.595	3.664
攻撃性合計	1506	60.175	12.758	94	68.298	14.228	1358	59.567	12.436
レイプ神話に関する認知									
レイプ神話に関する認知合計	1420	61.242	14.332	82	65.146	12.877	1291	60.935	14.407
子どもへの性的関心									
子どもへの性的関心合計	1376	61.074	16.609	77	65.688	15.422	1253	60.752	16.596

＜相関分析＞

相関分析では、性障害専門医療センターに受診した男性 1549 名 (平均年齢 34.4 歳, $SD = 11.7$) を対象とした。相関分析の結果、子どもへの性的関心の得点は、自閉スペクトラム症傾向の注意の切り替え、細部への注意、コミュニケーションと有意な正の相関を示した。また、前頭葉機能の障害を示すアパシー、遂行機能、脱抑制とも有意な正の相関を示した。さらに、衝動性の衝動的行動と計画性のなさ、自己制御の欠如、熟慮の欠如、現実志向、落ち着きのなさとも有意な正の相関を示した。加えて、攻撃性の身体的攻撃と短気、敵意とも有意な正の相関を示した。最後に、レイプ神話に関する認知とも有意な正の相関を示した。その他の下位尺度間の関連については、表 2 に記

載した。

自閉スペクトラム症傾向の該当者について検討するために、自閉症スペクトラム指数日本語版尺度 (若林他, 2004) に基づいて、カットオフポイントの 33 点を基準に分析を行った。その結果、1549 名中 77~96 名 (該当者数は、各尺度の欠損値により異なる) が自閉スペクトラム症傾向の該当者として確認された。自閉スペクトラム症傾向の該当者においては、子どもへの性的関心の得点は、レイプ神話に関する認知とのみ有意な正の相関を示した。その他の下位尺度と子どもへの性的関心の得点は有意な相関を示さなかった。

一方、自閉スペクトラム症傾向の非該当者についても検討するために、カットオフポイントの 33 点を基準に分析を行った。その結果、1549 名中 1164~1389 名 (非該当者数は、各尺度の欠損値により異なる) が自閉スペクトラム症傾向の非該当者として該当した。自閉スペクトラム症傾向の非該当者においては、子どもへの性的関心の得点は、自閉スペクトラム症傾向の注意の切り替え、細部への注意、コミュニケーションと有意な正の相関を示した。また、前頭葉機能の障害を示すアパシー、遂行機能、脱抑制とも有意な正の相関を示した。さらに、衝動性の衝動的行動と計画性のなさ、自己制御の欠如、熟慮の欠如、落ち着きのなさとも有意な正の相関を示した。加えて、攻撃性の身体的攻撃と短気、敵意とも有意な正の相関を示した。最後に、レイプ神話に関する認知とも有意な正の相関を示した。

以上の結果より、子どもへの性的関心の得点と各下位尺度得点との関連は、全参加者を対象とした際にみられるといえる。特に、自閉スペクトラム症傾向の非該当者における結果が影響しているといえる。そのため、自閉スペクトラム症傾向の該当者における子どもへの性的関心は、本研究で取り上げている子どもへの性的関心を除いた各質問紙 (前頭葉機能、情動認知、表情認知、衝動性、攻撃性、レイプ神話に関する認知) とほとんど関連がないといえる。

表2 各変数の相関係数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1 社会的スキル	—																													
2 注意のやり替え	-.454***	—																												
3 細胞への注意	-.167***		—																											
4 コミュニケーション	.600***	.536***	-.040	—																										
5 想像力	.428***	.273***	-.127***	.441***	—																									
6 自閉スペクトラム症傾向合計	.781***	.714***	.198***	.825***	.615***	—																								
7 アバシー	.519***	.410***	-.089***	.510***	.304***	.542***	—																							
8 実行機能	.320***	.476***	-.019	.540***	.282***	.508***	.578***	—																						
9 脱抑制	.234***	.371***	.061*	.456***	.194***	.415***	.423***	.778***	—																					
10 前面葉機能合計	.408***	.489***	-.021	.585***	.301***	.566***	.757***	.936***	.864***	—																				
11 嫌悪	.088***	.064*	-.006	-.030	.005	.041	.041	-.011	-.004	.012	—																			
12 恐怖	.026	-.002	-.052*	-.031	-.048	-.028	.005	-.060*	-.082**	-.062*	.137***	—																		
13 驚き	-.029	-.034	.005	-.024	-.021	-.030	-.017	-.071**	-.058*	-.046	.011	-.036	—																	
14 怒り	.076**	.048	-.046	.072**	.001	.056*	.052*	.001	-.020	.013	-.141***	.060*	.080**	—																
15 悲しみ	-.058*	-.040	.019	-.085**	-.072**	-.073**	-.069**	-.056*	-.075**	-.054*	.145***	.116***	.102***	.116***	—															
16 幸福	-.043	-.001	-.009	-.033	-.010	-.033	-.052*	-.060*	-.079**	-.054*	.139***	.190***	.166***	.188***	.115***	—														
17 視線	-.071*	-.086**	-.065*	-.137***	-.143**	-.156***	-.085**	-.156***	-.143***	-.145***	.139***	.190***	.141***	.188***	.214***	.113***	—													
18 報酬的行動	.081**	.044	.237***	.081**	.143***	.113***	.183***	.530***	.529***	.491***	-.074**	-.093***	-.011	-.027	-.009	-.035	-.114***	—												
19 計画性のなさ	.124**	.028	-.154***	.186***	.143***	.113***	.248***	.427***	.304***	.387***	-.048	-.013	-.017	-.006	.020	-.038	-.062*	.449***	—											
20 自己制御の欠如	.098*	.123***	.060*	.204***	.037	.153***	.181***	.462***	.500***	.455***	-.014	-.050	-.022	-.038	-.003	-.050	-.088**	.514***	.363***	—										
21 熟慮の欠如	.145**	.146***	-.196***	.269***	.191**	.173***	.209***	.409***	.308**	.371**	-.035	-.057*	-.056*	-.017	-.037	-.067**	-.106***	.365***	.476***	.319***	—									
22 逆発志向	.103***	.021	-.064*	.067**	.084**	.073**	.104***	.105***	.052*	.110***	-.065*	.008	-.004	-.022	.005	.000	-.012	.153***	.238***	.135***	.151***	—								
23 落ち着きのなさ	.063*	.203***	.121**	.191***	.017	.188***	.194***	.311***	.379***	.341***	.022	-.027	-.040	.003	-.041	-.046	-.090**	.225***	-.0002	.336***	.025	-.095***	—							
24 衝動性合計	.108***	.146***	-.038	.310***	.140***	.213***	.277***	.627***	.588***	.594***	-.064*	-.077**	-.037	-.036	-.016	-.060*	-.127***	.833***	.697***	.762***	.625***	.324***	.331***	—						
25 身体的攻撃	.073**	.131***	.070**	.184***	.036	.153***	.088*	.273***	.401***	.291***	.020	-.027	-.029	.024	-.020	-.022	-.071*	.262***	.130***	.256***	.171***	.026	.206***	.294***	—					
26 短気	.109***	.302***	.120**	.298***	.098***	.289***	.138***	.392***	.524***	.418***	.026	-.065*	-.014	-.001	-.064*	-.056*	-.087**	.368***	.086**	.330***	.196***	-.022	.274***	.362***	.497***	—				
27 敵意	.244***	.331***	.155***	.369***	.133***	.394***	.335***	.455***	.513***	.507***	-.006	-.077**	-.038	.005	-.096***	-.016	-.149***	.272***	.090**	.327***	.129***	-.027	.345***	.317***	.352***	.460***	—			
28 言語的攻撃	.336**	.189***	.189***	-.254***	-.183***	-.255***	.337***	.385***	.003	-.194***	-.020	-.008	.034	-.018	.005	.030	.031	.078**	-.180***	.040	-.209***	-.069**	.040	-.052*	.191***	.230***	-.025	—		
29 攻撃性合計	.066*	.237***	.188***	.251***	.048	.245***	.187***	.374***	.554***	.409***	.011	-.067*	-.021	.007	-.067*	-.027	-.107***	.368***	.066*	.363***	.139***	-.027	.329***	.359***	.774***	.809***	.687***	.444***	—	
30 レイブ陣屋に関する認知合計	.006	.145***	.089**	.170***	.064*	.145***	.137***	.257***	.286***	.265***	-.018	-.073**	-.031	-.001	-.067*	.011	-.094**	.222***	.070**	.210***	.143***	.009	.128***	.226***	.249***	.158***	.261***	.056*	.275***	—
31 子どもへの性的関心合計	-.003	.120***	.083**	.171***	.051	.133***	.139***	.256***	.273***	.262***	-.047	-.061*	-.023	.021	-.051	.004	-.069*	.188***	.083**	.199***	.118***	.034	.130***	.210***	.211***	.105***	.249***	.045	.232***	.715***

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

<t 検定>

自閉スペクトラム症傾向者の割合について検討するために、自閉症スペクトラム指数日本語版尺度 (若林他, 2004) に基づいて、カットオフポイントの 33 点を基準に分析を行った。その結果、1549 名中 77~96 名 (該当者数は、各尺度の欠損値により異なる) が自閉スペクトラム症傾向の該当者として確認された。また、1549 名中 1164~1389 名 (非該当者数は、各尺度の欠損値により異なる) が自閉スペクトラム症傾向の非該当者として確認された。

この結果に基づいて、各質問紙 (前頭葉機能、情動認知、表情認知、衝動性、攻撃性、レイプ神話に関する認知、子どもへの性的関心) の得点差について検討した。その結果、前頭葉機能のアパシー ($t(1468) = 10.834, p = .000$), 遂行機能 ($t(1468) = 10.847, p = .000$), 脱抑制 ($t(1466) = 9.538, p = .000$), 前頭葉機能合計得点 ($t(1448) = 11.935, p = .000$), 表情による情動検査の悲しみ ($t(1444) = 2.146, p = .032$), 表情認知の視線 ($t(1241) = 2.454, p = .014$), 衝動性の衝動的行動 ($t(1469) = 4.478, p = .000$), 熟慮の欠如 ($t(1472) = 2.471, p = .014$), 落ち着きのなさ ($t(1477) = 3.202, p = .001$), 衝動性合計得点 ($t(1447) = 3.628, p = .000$), 攻撃性の身体的攻撃 ($t(1464) = 3.418, p = .001$), 短気 ($t(1466) = 7.317, p = .000$), 敵意 ($t(1457) = 8.746, p = .000$), 言語的攻撃 ($t(1466) = 3.027, p = .003$), 攻撃性合計得点 ($t(1450) = 6.518, p = .000$), レイプ神話に関する認知 ($t(1371) = 2.582, p = .001$), 子どもへの性的関心 ($t(1328) = 2.543, p = .011$) に有意な差がみられた (図 4, 図 5)。

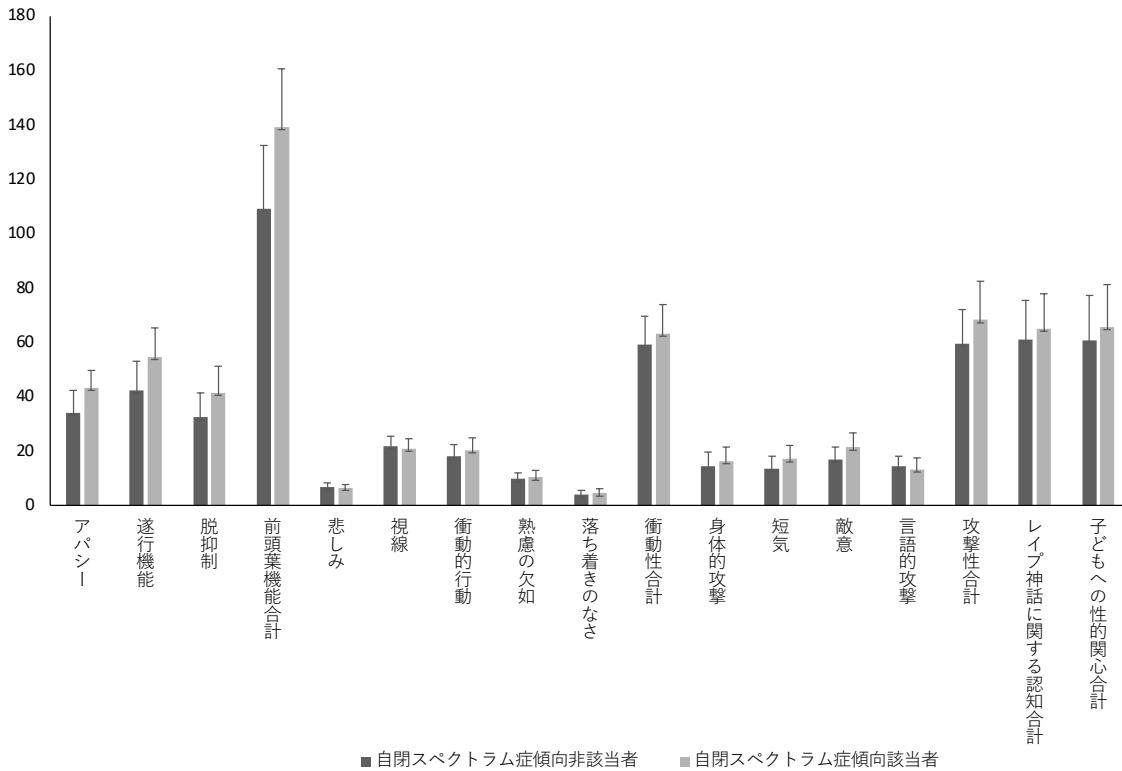
以上の結果から、まず、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、アパシー、遂行機能、脱抑制、前頭葉機能の得点が高いといえる。この結果は、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々が前頭葉の機能に何らかの障害があるために、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、自発的行動が少なく、注意が散漫しており、計画的に順序立てて行動することが難しいことを示しているといえる。次に、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、悲しみの得点が低くなった。この結果は、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、表情から悲しみの感情を把握することに困難があることを示しているといえる。また、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、視線の得点が低くなった。この結果から、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、視線から表情を認知することに困難があるといえる。さらに、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、衝動的行動、熟慮の欠如、落ち着きのなさ、衝動性合計の得点が高くなった。この結果から、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、何も考えずに行動したり、物事に集中して取り組めなかったり、衝動的に行動する傾向にあるといえる。加えて、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、身体的攻撃、短気、敵意、合計得点の得点が高くなった。また、言語的攻撃の得点が低くなった。この結果から、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、怒りが喚起されやすく、他者に対する否定的な信念や態

度が強いといえる。また、他者への身体的な攻撃行動も多いといえる。しかし、言語的に人を傷つけるような攻撃行動は喚起しづらいといえる。さらに、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、レイプ神話に関する認知の合計得点が高くなった。この結果から、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、レイプ神話の認知の歪みが形成されている可能性が高いといえる。最後に、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、子どもへの性的関心の合計得点が高くなった。

図4 t検定の記述統計

各尺度の変数	対象者	人数	平均値	標準偏差
アパシー	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1376	34.227	8.050
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	94	43.415	6.386
遂行機能	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1376	42.346	10.693
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	94	54.702	10.564
脱抑制	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1374	32.458	8.841
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	94	41.500	9.615
前頭葉機能合計	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1358	109.067	23.493
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	92	139.120	21.516
嫌悪	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1348	3.434	1.877
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	95	3.642	2.015
恐怖	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1357	3.565	2.336
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	94	3.245	2.188
驚き	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1362	7.737	0.589
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	93	7.688	0.722
怒り	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1352	4.437	1.918
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	93	4.559	1.891
悲しみ	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1353	6.880	1.349
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	93	6.570	1.297
幸福	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1360	7.865	0.567
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	93	7.807	0.472
視線	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1164	21.967	3.603
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	79	20.937	3.722
衝動的行動	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1376	18.245	4.327
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	95	20.305	4.484
計画性のなさ	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1381	9.665	2.593
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	93	10.075	2.630
自己制御の欠如	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1376	12.419	3.205
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	95	12.958	3.414
熟慮の欠如	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1379	9.785	2.299
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	95	10.390	2.429
現実志向	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1386	5.132	1.405
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	95	5.147	1.650
落ち着きのなさ	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1384	4.069	1.434
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	95	4.558	1.542
衝動性合計	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1356	59.325	10.229
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	93	63.312	10.562
身体的攻撃	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1372	14.488	5.103
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	94	16.351	5.273
短気	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1374	13.580	4.565
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	94	17.160	4.935
敵意	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1365	16.941	4.731
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	94	21.383	5.212
言語的攻撃	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1374	14.595	3.664
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	94	13.404	4.033
攻撃性合計	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1358	59.567	12.436
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	94	68.298	14.228
レイプ神話に関する認知合計	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1291	60.935	14.407
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	82	65.146	12.877
子どもへの性的関心合計	自閉スペクトラム症傾向の非該当者	1253	60.752	16.596
	自閉スペクトラム症傾向の該当者	77	65.688	15.422

図5 各下位尺度におけるt検定



<研究1>

自閉スペクトラム症傾向の人々は、前頭葉の機能が低下し、他者の視線や表情から感情を認知することが困難であるため (橋本, 2008)、この傾向が犯罪を促進する可能性がある。そこで、研究1では、前頭葉機能の低下や他者の視線や表情の認知の乏しさが性犯罪者の子どもへの性的関心を促すのかを明らかにする。

自閉スペクトラム症傾向の該当者において、子どもへの性的関心を従属変数、前頭葉機能、情動認知、表情認知を独立変数とする重回帰分析を行った。対象者は、男性 59 名 (平均年齢 35.5 歳, $SD=11.3$) だった。独立変数に関する多重共線性を検討した結果、VIF 統計量の値は、1.097~1.276 となった。分析の結果、以下のような結果となった。前頭葉機能： $B=-0.107, SE=0.128, \beta=-.118, p=.406$ 、嫌悪： $B=-2.504, SE=1.272, \beta=-.289, p=.055$ 、恐怖： $B=0.236, SE=1.099, \beta=.030, p=.831$ 、驚き： $B=-3.840, SE=5.063, \beta=-.112, p=.452$ 、怒り： $B=-1.791, SE=1.273, \beta=-.213, p=.166$ 、悲しみ： $B=1.175, SE=1.831, \beta=.095, p=.524$ 、幸福： $B=0.683, SE=9.255, \beta=.011, p=.941$ 、視線： $B=-0.085, SE=0.795, \beta=-.016, p=.915$ ($F(8,50)=0.714, p=.678$)。

また、下位尺度得点においても重回帰分析を実施した。VIF 統計量の値は、1.006~1.647 となった。分析の結果、以下のような結果となった。アパシー： $B=0.210, SE=0.361, \beta=.085, p=.563$ 、遂行機能： $B=-0.195, SE=0.370, \beta=-.101, p=.601$ 、脱抑制： $B=-0.225, SE=0.357, \beta=-.110, p=.531$ 、嫌悪： $B=-2.668, SE=1.322, \beta=-.308, p=.049$ 、恐怖： $B=0.143, SE=1.115, \beta=.018, p=.898$ 、驚き： $B=-4.559, SE=5.187, \beta=-.133, p=.384$ 、怒り： $B=-1.818, SE=1.311, \beta=-.216, p=.166$ 。

= .172, 悲しみ : $B = 1.300, SE = 1.973, \beta = .105, p = .513$, 幸福 : $B = -0.372, SE = 9.477, \beta = -.006, p = .969$, 視線 : $B = -0.086, SE = 0.806, \beta = -.016, p = .916$ ($F(10,48) = 0.650, p = .763$)。以上から、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、前頭葉機能の低下や他者の視線や表情の認知の乏しさによって子どもへの性的関心を促進しているわけではないといえる。

一方で、自閉スペクトラム症傾向の非該当者においても、子どもへの性的関心を従属変数、前頭葉機能、情動認知、表情認知を独立変数とする重回帰分析を行った。対象者は、男性 988 名 (平均年齢 35.0 歳, $SD = 11.5$) だった。独立変数に関する多重共線性を検討した結果、VIF 統計量の値は、1.027~1.087 となった。分析の結果、以下のような結果となった。前頭葉機能 : $B = 0.197, SE = 0.022$, 嫌悪 : $B = 0.062, SE = 0.277, \beta = -.023, p = .476$, 恐怖 : $B = -0.295, SE = 0.224, \beta = -.042, p = .187$, 驚き : $B = -0.284, SE = 0.910, \beta = -.010, p = .755$, 怒り : $B = 0.197, SE = 0.263, \beta = .023, p = .455$, 悲しみ : $B = -0.111, SE = 0.395, \beta = -.009, p = .778$, 幸福 : $B = 0.518, SE = 0.870, \beta = .019, p = .551$, 視線 : $B = -0.106, SE = 0.148, \beta = -.023, p = .476$, $\beta = .281, p = .000$ ($F(8,979) = 11.467, p = .000$)。

また、下位尺度得点においても重回帰分析を実施した。VIF 統計量の値は、1.036~3.022 となった。分析の結果、以下のような結果となった。アパシー : $B = -0.074, SE = 0.076, \beta = -.036, p = .334$, 遂行機能 : $B = 0.176, SE = 0.082, \beta = .113, p = .031$, 脱抑制 : $B = 0.439, SE = 0.088$, 嫌悪 : $B = 0.091, SE = 0.274, \beta = .010, p = .740$, 恐怖 : $B = -0.230, SE = 0.222, \beta = -.032, p = .300$, 驚き : $B = -0.321, SE = 0.902, \beta = -.011, p = .722$, 怒り : $B = 0.264, SE = 0.261, \beta = .031, p = .313$, 悲しみ : $B = -0.187, SE = 0.392, \beta = -.015, p = .633$, 幸福 : $B = 0.498, SE = 0.862, \beta = .018, p = .563$, 視線 : $B = -0.104, SE = 0.147, \beta = -.022, p = .478$, $\beta = .236, p = .000$ ($F(10,977) = 11.493, p = .000$)。以上から、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々は、前頭葉機能の低下、特に遂行機能の障害や脱抑制により子どもへの性的関心を促進しているといえる。

<研究 2>

レイプ神話は小児性愛を促進させることから (大淵他, 1985), 研究 2 では、自閉スペクトラム傾向の該当者においてもレイプ神話への信仰という認知の歪みが子どもへの性的関心を高めるのかについて明らかにした。

自閉スペクトラム症傾向の該当者は、男性 73 名 (平均年齢 35.3 歳, $SD = 11.1$) だった。子どもへの性的関心を従属変数、レイプ神話に関する認知を独立変数とする単回帰分析を行った。独立変数に関する多重共線性を検討した結果、VIF 統計量の値は、1.000 となった。分析の結果、レイプ神話に関する認知の得点は、子どもへの性的関心の得点に有意な正の効果を示した ($B = 0.847, SE = 0.097, \beta = .719, p = .000, F(1,71) = 75.846, p = .000$)。したがって、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、レイプ神話に関する認知により、子どもへの性的関心を高めているといえる。

一方で、自閉スペクトラム症傾向の非該当者においても、子どもへの性的関心を従属変数、レ

レイプ神話に関する認知を独立変数とする単回帰分析を行った。対象者は、男性 1227 名 (平均年齢 34.2 歳, $SD = 11.6$) だった。独立変数に関する多重共線性を検討した結果、VIF 統計量の値は、1.000 となった。分析の結果、レイプ神話に関する認知は、子どもへの性的関心の得点に有意な正の効果を示した ($B = 0.814, SE = 0.023, \beta = .712, p = .000, F(1,1225) = 1256.532, p = .000$)。したがって、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々は、レイプ神話に関する認知により、子どもへの性的関心を高めているといえる。

以上の結果から、レイプ神話に関する認知は、自閉スペクトラム症傾向の該当者、非該当者に関わらず子どもへの性的関心を高めるといえる。

<研究 3>

自閉スペクトラム症の人々は、衝動性や攻撃性が高いことから (山脇・福井, 2019), 自閉スペクトラム症傾向の性犯罪者においても、これらの特徴の高まりが子どもへの性的関心を促しているのかを明らかにする研究 3 を実施した。自閉スペクトラム症傾向の該当者は、男性 73 名 (平均年齢 35.6 歳, $SD = 11.1$) だった。子どもへの性的関心を従属変数、衝動性と攻撃性を独立変数とする重回帰分析を行った。詳細に検討するために、各尺度の合計得点、下位尺度得点のそれぞれにおいて分析を実施した。

まず、自閉スペクトラム症傾向の該当者における合計得点の分析を行った。独立変数に関する多重共線性を検討した結果、VIF 統計量の値は、1.108 となった。分析の結果、衝動性と攻撃性に有意な効果は示されなかった (衝動性 : $B = 0.164, SE = 0.174, \beta = .118, p = .349$, 攻撃性 : $B = 0.024, SE = 0.134, \beta = .022, p = .858, F(2,70) = 131.753, p = .568$)。また、下位尺度得点において分析を実施した結果、VIF 統計量の値は、1.411~2.285 となり、分析の結果、衝動性と攻撃性に有意な効果は示されなかった (衝動的行動 : $B = 0.680, SE = 0.534, \beta = .198, p = .208$, 計画性のなさ : $B = 0.268, SE = 0.908, \beta = .047, p = .769$, 自己制御の欠如 : $B = 0.705, SE = 0.722, \beta = .157, p = .332$, 熟慮の欠如 : $B = -0.139, SE = 0.876, \beta = -.022, p = .875$, 現実志向 : $B = -0.206, SE = 1.313, \beta = -.021, p = .876$, 落ち着きのなさ : $B = -2.091, SE = 1.446, \beta = -.205, p = .153$, 身体的攻撃 : $B = 0.751, SE = 0.395, \beta = .263, p = .062$, 短気 : $B = -1.381, SE = 0.532, \beta = -.449, p = .012$, 敵意 : $B = 0.552, SE = 0.448, \beta = .184, p = .222$, 言語的攻撃 : $B = 0.089, SE = 0.601, \beta = .022, p = .883, F(10,62) = 1.427, p = .190$)。このことから、自閉スペクトラム症傾向の該当者における子どもへの性的関心には、攻撃性も衝動性も影響を及ぼさないといえる。

一方で、自閉スペクトラム症傾向の非該当者における子どもへの性的関心を従属変数、衝動性と攻撃性を独立変数とする重回帰分析を行った。詳細に検討するために、各尺度の合計得点、下位尺度得点のそれぞれにおいて分析を実施した。まず、自閉スペクトラム症傾向の非該当者における合計得点の分析を行った。対象者は、男性 1199 名 (平均年齢 34.3 歳, $SD = 11.5$) だった。独立変数に関する多重共線性を検討した結果、VIF 統計量の値は、1.127 となった。分析の結果、衝動性と攻撃性に有意な正の効果が示された (衝動性 : $B = 0.235, SE = 0.048, \beta = .146, p$

= .000, 攻撃性 : $B = 0.257, SE = 0.039, \beta = .194, p = .000, F(2,1196) = 50.468, p = .000$). また, 下位尺度得点において分析を実施した結果, VIF 統計量の値は, 1.100~1.708 となり, 衝動性と攻撃性の各下位尺度に有意な効果が示された (衝動的行動 : $B = 0.294, SE = 0.136, \beta = .077, p = .031$, 計画性のなさ : $B = -0.247, SE = 0.222, \beta = -.039, p = .268$, 自己制御の欠如 : $B = 0.409, SE = 0.178, \beta = .080, p = .021$, 熟慮の欠如 : $B = 0.479, SE = 0.237, \beta = .067, p = .043$, 現実志向 : $B = 0.151, SE = 0.333, \beta = .013, p = .651$, 落ち着きのなさ : $B = 0.376, SE = 0.352, \beta = .033, p = .286$, 身体的攻撃 : $B = 0.456, SE = 0.105, \beta = .141, p = .000$, 短気 : $B = -0.455, SE = 0.127, \beta = -.126, p = .000$, 敵意 : $B = 0.735, SE = 0.112, \beta = .213, p = .000$, 言語的攻撃 : $B = 0.220, SE = 0.138, \beta = .049, p = .110, F(10,1188) = 15.335, p = .000$). このことから, 自閉スペクトラム症傾向の非該当者における子どもへの性的関心には, 衝動的行動と自己制御の欠如, 熟慮の欠如, 身体的攻撃, 短気, 敵意が影響を及ぼすといえる。

したがって, 子どもへの性的関心には, 衝動的行動と自己制御の欠如, 熟慮の欠如, 身体的攻撃, 短気, 敵意が影響を及ぼすといえるが, この傾向は, 自閉スペクトラム症傾向の該当者ではなく, 非該当者に顕著であるといえる。

<研究 4>

研究 1~3 の分析結果により, どの変数が子どもへの性的関心に影響するのかについて自閉スペクトラム症傾向の該当者, 非該当者の各々において重回帰分析により検討した。

自閉スペクトラム症傾向の該当者は, 男性 57 名 (平均年齢 35.5 歳, $SD = 10.9$) だった。子どもへの性的関心を従属変数, 前頭葉機能, 情動認知, 表情認知, レイプ神話に関する認知, 衝動性, 攻撃性を独立変数とする重回帰分析を行った。独立変数に関する多重共線性を検討した結果, VIF 統計量の値は, 1.158~1.516 となった。分析の結果, 以下のような結果となった。前頭葉機能 : $B = -0.002, SE = 0.102, \beta = -.002, p = .983$, 嫌悪 : $B = -0.895, SE = 0.903, \beta = -.103, p = .327$, 恐怖 : $B = 0.522, SE = 0.778, \beta = .066, p = .506$, 驚き : $B = -3.303, SE = 3.480, \beta = -.094, p = .348$, 怒り : $B = 0.668, SE = 0.945, \beta = .078, p = .483$, 悲しみ : $B = 2.023, SE = 1.262, \beta = .163, p = .116$, 幸福 : $B = 1.206, SE = 6.366, \beta = .020, p = .851$, 視線 : $B = -0.067, SE = 0.570, \beta = -.013, p = .907$, レイプ神話に関する認知 : $B = 0.925, SE = 0.121, \beta = .790, p = .000$, 衝動性 : $B = 0.242, SE = 0.166, \beta = .712, p = .153$, 攻撃性 : $B = -0.056, SE = 0.113, \beta = -.051, p = .624, (F(11,45) = 6.845, p = .000)$). また, 下位尺度得点において分析を実施した結果, VIF 統計量の値は, 1.411~3.702 となり, 分析結果は, 以下ようになった。アパシー : $B = 0.133, SE = 0.279, \beta = .054, p = .637$, 遂行機能 : $B = 0.100, SE = 0.300, \beta = .052, p = .742$, 脱抑制 : $B = -0.303, SE = 0.337, \beta = -.146, p = .374$, 嫌悪 : $B = -1.148, SE = 0.884, \beta = -.132, p = .203$, 恐怖 : $B = 0.678, SE = 0.877, \beta = .086, p = .444$, 驚き : $B = -1.777, SE = 3.504, \beta = -.051, p = .615$, 怒り : $B = 0.707, SE = 0.927, \beta = .083, p = .451$, 悲しみ : $B = 0.700, SE = 1.523, \beta = .056, p = .649$, 幸福 : $B = 1.865, SE = 6.573, \beta = .003, p = .778$, 視線 : $B = 0.280, SE = 0.546, \beta = .053, p = .612$, レイプ神話に関する認知 : $B = 0.893, SE$

= 0.125, $\beta = .763$, $p = .000$, 衝動的行動 : $B = 0.145$, $SE = 0.575$, $\beta = .041$, $p = .803$, 計画性のなさ : $B = 1.631$, $SE = 0.851$, $\beta = .254$, $p = .063$, 自己制御の欠如 : $B = 0.638$, $SE = 0.661$, $\beta = .137$, $p = .341$, 熟慮の欠如 : $B = -0.504$, $SE = 0.826$, $\beta = -.075$, $p = .545$, 現実志向 : $B = -0.559$, $SE = 1.319$, $\beta = -.055$, $p = .674$, 落ち着きのなさ : $B = -2.257$, $SE = 1.262$, $\beta = -.197$, $p = .082$, 身体的攻撃 : $B = 1.001$, $SE = 0.353$, $\beta = .335$, $p = .008$, 短気 : $B = 0.095$, $SE = 0.503$, $\beta = .030$, $p = .851$, 敵意 : $B = -0.275$, $SE = 0.386$, $\beta = -.088$, $p = .481$, 言語的攻撃 : $B = -0.860$, $SE = 0.548$, $\beta = -.210$, $p = .125$, ($F(21,35) = 5.081$, $p = .000$)。このことから、自閉スペクトラム症傾向の該当者における子どもへの性的関心には、レイプ神話に関する認知、衝動性の中でも計画性のなさ、攻撃性の中でも身体的攻撃が影響を及ぼすといえる。

一方で、自閉スペクトラム症傾向の非該当者は、男性 932 名 (平均年齢 34.6 歳, $SD = 11.2$) だった。子どもへの性的関心を従属変数、前頭葉機能、情動認知、表情認知、レイプ神話に関する認知、衝動性、攻撃性を独立変数とする重回帰分析を行った。独立変数に関する多重共線性を検討した結果、VIF 統計量の値は、1.045~1.644 となった。分析の結果、以下のような結果となった。前頭葉機能 : $B = 0.067$, $SE = 0.021$, $\beta = .096$, $p = .001$, 嫌悪 : $B = -0.053$, $SE = 0.209$, $\beta = -.006$, $p = .799$, 恐怖 : $B = -0.044$, $SE = 0.170$, $\beta = -.006$, $p = .798$, 驚き : $B = 0.045$, $SE = 0.699$, $\beta = .002$, $p = .948$, 怒り : $B = 0.210$, $SE = 0.198$, $\beta = .025$, $p = .288$, 悲しみ : $B = -0.002$, $SE = 0.302$, $\beta = .000$, $p = .995$, 幸福 : $B = -0.132$, $SE = 0.650$, $\beta = -.005$, $p = .839$, 視線 : $B = 0.052$, $SE = 0.113$, $\beta = .011$, $p = .642$, レイプ神話に関する認知 : $B = 0.758$, $SE = 0.028$, $\beta = .679$, $p = .000$, 衝動性 : $B = -0.003$, $SE = 0.047$, $\beta = -.002$, $p = .956$, 攻撃性 : $B = 0.006$, $SE = 0.034$, $\beta = .005$, $p = .860$, ($F(11,920) = 86.918$, $p = .000$)。また、下位尺度得点において分析を実施した結果、VIF 統計量の値は、1.045~3.584 となり、分析結果は、以下のようになった。アパシー : $B = -0.040$, $SE = 0.063$, $\beta = -.020$, $p = .521$, 遂行機能 : $B = 0.101$, $SE = 0.068$, $\beta = .065$, $p = .135$, 脱抑制 : $B = 0.158$, $SE = 0.078$, $\beta = .085$, $p = .042$, 嫌悪 : $B = -0.025$, $SE = 0.211$, $\beta = -.003$, $p = .906$, 恐怖 : $B = -0.052$, $SE = 0.171$, $\beta = -.007$, $p = .760$, 驚き : $B = 0.336$, $SE = 0.703$, $\beta = .011$, $p = .633$, 怒り : $B = 0.220$, $SE = 0.198$, $\beta = .026$, $p = .265$, 悲しみ : $B = -0.038$, $SE = 0.303$, $\beta = -.003$, $p = .899$, 幸福 : $B = -0.236$, $SE = 0.652$, $\beta = -.009$, $p = .717$, 視線 : $B = 0.064$, $SE = 0.113$, $\beta = .014$, $p = .573$, レイプ神話に関する認知 : $B = 0.747$, $SE = 0.028$, $\beta = .669$, $p = .000$, 衝動的行動 : $B = -0.149$, $SE = 0.121$, $\beta = -.040$, $p = .219$, 計画性のなさ : $B = 0.091$, $SE = 0.194$, $\beta = .014$, $p = .641$, 自己制御の欠如 : $B = 0.008$, $SE = 0.155$, $\beta = .002$, $p = .960$, 熟慮の欠如 : $B = 0.021$, $SE = 0.205$, $\beta = .003$, $p = .917$, 現実志向 : $B = 0.134$, $SE = 0.284$, $\beta = .012$, $p = .637$, 落ち着きのなさ : $B = 0.229$, $SE = 0.308$, $\beta = .020$, $p = .457$, 身体的攻撃 : $B = 0.112$, $SE = 0.090$, $\beta = .034$, $p = .213$, 短気 : $B = -0.368$, $SE = 0.110$, $\beta = -.101$, $p = .001$, 敵意 : $B = 0.125$, $SE = 0.099$, $\beta = .037$, $p = .209$, 言語的攻撃 : $B = 0.129$, $SE = 0.124$, $\beta = .029$, $p = .296$, ($F(21,910) = 46.764$, $p = .000$)。このことから、自閉スペクトラム症傾向の非該当者における子どもへの性的関心には、レイプ神話に関する認知、前頭葉機能障害の中でも脱抑制、攻撃性の中でも短気が影響を及ぼすといえる。

【考察】

本研究では、自閉スペクトラム症傾向の性犯罪者の子どもへの性的関心を促進する諸要因について明らかにした。具体的には、自閉スペクトラム症傾向の人々は、表情を正確に認識できないことから、ポルノ出演者の年齢などを見誤る可能性があるため、前頭葉の機能障害や表情認知の乏しさについて明らかにした。また、レイプ神話の信仰などの認知の歪みも性行為を高めることから、子どもへの関心も認知の歪みにより高められるのかを検討した。さらに、自閉スペクトラム症傾向の性犯罪者の衝動性や攻撃性が子どもへの性的関心を高めているのかについても検討した。

以上から、まず、研究 1 では、自閉スペクトラム症傾向者における前頭葉機能の低下や他者の視線や表情の認知の乏しさが性犯罪者の子どもへの性的関心を促すのかを明らかにした。次に、研究 2 では、自閉スペクトラム症傾向者におけるレイプ神話への信仰という認知の歪みが子どもへの性的関心を高めるのかについて明らかにした。さらに、研究 3 では、自閉スペクトラム症傾向の性犯罪者における衝動性や攻撃性の高まりが子どもへの性的関心を促しているのかについて検討した。最後に、研究 4 では、以上のすべての変数が子どもへの性的関心を促すのかも検討した。

＜記述統計、相関分析、t 検定について＞

研究 1～研究 4 について検討するために、まず、各尺度における記述統計と相関分析、t 検定を明らかにした。

本研究では、性障害専門医療センターに受診した男性 1549 名を対象とした。対象者の平均年齢は、34.4 歳($SD=11.7$) であり、平均年齢は 34 歳であったが、参加者の年齢の割合は、20 歳代後半から 30 歳代後半が最も多かった。また、性障害専門医療センターに受診した男性 1549 名のうち、自閉スペクトラム症傾向該当者について検討するために、自閉症スペクトラム指数日本語版尺度 (若林他, 2004) に基づいて、カットオフポイントの 33 点を基準に分析を行った。その結果、年齢のデータに欠損のない対象者は、95 名であり、対象者の平均年齢は、35.1 歳 ($SD=11.5$) だった。平均年齢は 35 歳であったが、参加者の年齢の割合は、20 歳代から 40 歳代が最も多かった。一方で、自閉スペクトラム症傾向の非該当者で年齢のデータに欠損のない対象者は、1378 名であり、対象者の平均年齢は、34.4 歳($SD=11.8$) だった。平均年齢は 34 歳であったが、参加者の年齢の割合は、20 歳代後半から 30 歳代後半が最も多かった。以上から、性障害専門医療センターの受診者は 20 歳代から 30 歳代がもっとも多いといえる。

次に、全参加者、自閉スペクトラム症傾向の該当者、自閉スペクトラム症傾向の非該当者を対象に、本研究で使用した尺度における平均値と標準偏差を示した。各尺度において欠損値が異なることから、参加者数には、ばらつきがみられた。その上で、全参加者において、自閉スペ

クトラム症傾向における先行研究 (若林他, 2004) と自閉スペクトラム症傾向の各下位尺度の得点について比較した。先行研究の男性参加者の結果では、自閉スペクトラム症傾向の合計は 19.1 点、社会的スキルは 3.7 点、注意の切り替えは 4.2 点、細部への注意は 4.7 点、コミュニケーションは 3.0 点、想像力は 3.4 点と示されていた。本研究では、自閉スペクトラム症傾向の合計は、21.2 点、社会的スキルは 4.5 点、注意の切り替えは 4.8 点、細部への注意は 4.0 点、コミュニケーションは 3.8 点、想像力は 4.1 点だった。細部への注意以外、先行研究よりも得点が高い結果となった。一方で、自閉スペクトラム症傾向の該当者の得点は、自閉スペクトラム症傾向の合計は 35.4 点、社会的スキルは 8.1 点、注意の切り替えは 7.4 点、細部への注意は 5.4 点、コミュニケーションは 7.7 点、想像力は 6.8 点となった。先行研究 (若林他, 2004) の成人の高機能自閉症あるいはアスペルガー症候群 (DSM などの客観的診断基準に基づいて、精神科医等の専門家によって自閉症ないしアスペルガー症候群という診断を受けている; 若林他, 2004) の結果では、自閉スペクトラム症傾向の合計は、37.9 点、社会的スキルは 8.3 点、注意の切り替えは 7.9 点、細部への注意は 6.2 点、コミュニケーションは 8.2 点、想像力は 7.4 点となった。そのため、性障害専門医療センターに受診している自閉スペクトラム症傾向の該当者は、成人の高機能自閉症あるいはアスペルガー症候群の診断を受けている人々よりも、比較的低い数値を示しているといえる。

次に、相関分析の結果、子どもへの性的関心の得点は、自閉スペクトラム症傾向の注意の切り替え、細部への注意、コミュニケーションと有意な正の相関を示した。また、前頭葉機能の障害を示すアパシー、遂行機能、脱抑制とも有意な正の相関を示した。さらに、衝動性の衝動的行動と計画性のなさ、自己制御の欠如、熟慮の欠如、現実志向、落ち着きのなさとも有意な正の相関を示した。加えて、攻撃性の身体的攻撃と短気、敵意とも有意な正の相関を示した。最後に、レイプ神話に関する認知とも有意な正の相関を示した。自閉スペクトラム症傾向の該当者 (1549 名中 77~96 名 (該当者数は、各尺度の欠損値により異なる)) においては、子どもへの性的関心の得点は、レイプ神話に関する認知とのみ有意な正の相関を示した。その他の下位尺度と子どもへの性的関心の得点は有意な相関を示さなかった。自閉スペクトラム症傾向の非該当者 (1549 名中 1164~1389 名 (非該当者数は、各尺度の欠損値により異なる)) においては、子どもへの性的関心の得点は、自閉スペクトラム症傾向の注意の切り替え、細部への注意、コミュニケーションと有意な正の相関を示した。また、前頭葉機能の障害を示すアパシー、遂行機能、脱抑制とも有意な正の相関を示した。さらに、衝動性の衝動的行動と計画性のなさ、自己制御の欠如、熟慮の欠如、落ち着きのなさとも有意な正の相関を示した。加えて、攻撃性の身体的攻撃と短気、敵意とも有意な正の相関を示した。最後に、レイプ神話に関する認知とも有意な正の相関を示した。以上の結果より、子どもへの性的関心の得点と各下位尺度得点との関連は、概ね全参加者を対象とした際に明らかになり、特に、自閉スペクトラム症傾向の非該当者における結果が影響しているといえる。

次に、各質問紙 (前頭葉機能、情動認知、表情認知、衝動性、攻撃性、レイプ神話に関する認知、子どもへの性的関心) の得点差について、自閉スペクトラム症傾向の該当者 (1549 名中 77

～96 名（該当者数は、各尺度の欠損値により異なる）と非該当者（1549 名中 1164～1389 名（非該当者数は、各尺度の欠損値により異なる））を比較検討した。その結果、前頭葉機能のアパシー、遂行機能、脱抑制、前頭葉機能合計得点、表情による情動検査の悲しみ、表情認知の視線、衝動性の衝動的行動、熟慮の欠如、落ち着きのなさ、衝動性合計得点、攻撃性の身体的攻撃、短気、敵意、言語的攻撃、攻撃性合計得点、レイプ神話に関する認知、子どもへの性的関心に有意な差がみられた。以上の結果から、まず、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、アパシー、遂行機能、脱抑制、前頭葉機能の得点が高いといえる。この結果は、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々が前頭葉の機能に何らかの障害があるために、自発的行動が少なく、注意が散漫しており、計画的に順序立てて行動することが難しいことを示しているといえる。次に、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、悲しみの得点が低くなった。この結果は、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、表情から悲しみの感情を把握することに困難があることを示しているといえる。また、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、視線の得点が低くなった。この結果から、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、視線から表情を認知することに困難があるといえる。さらに、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、衝動的行動、熟慮の欠如、落ち着きのなさ、衝動性合計の得点が高くなった。この結果から、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、何も考えずに行動したり、物事に集中して取り組めなかったり、衝動的に行動する傾向にあるといえる。加えて、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、身体的攻撃、短気、敵意、合計得点の得点が高くなった。また、言語的攻撃の得点が低くなった。この結果から、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、怒りが喚起されやすく、他者に対する否定的な信念や態度が強いといえる。また、他者への身体的な攻撃行動も多いといえる。しかし、言語的に人を傷つけるような攻撃行動は喚起しづらいといえる。さらに、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、レイプ神話に関する認知の合計得点が高くなった。この結果から、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、レイプ神話の認知の歪みが形成されている可能性が高いといえる。最後に、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々よりも、子どもへの性的関心の合計得点が高くなった。この結果から、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、自閉スペクトラム症傾向の特徴であるコミュニケーションの困難や社会的スキルの乏しさの影響から、同年代の人々との対人関係において何らかの不都合を抱えており、子どもに対する関心が高まり、子どもに対する性的認知が形成されている可能性があるといえる。

<研究 1～4 について>

研究 1 では、前頭葉機能の低下や他者の視線や表情の認知の乏しさが性犯罪者の子どもへの

性的関心を促すのかを明らかにした。まず、自閉スペクトラム症傾向の該当者において、子どもへの性的関心を従属変数、前頭葉機能、情動認知、表情認知を独立変数とする重回帰分析を行った結果、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、前頭葉機能の低下や他者の視線や表情の認知の乏しさによって子どもへの性的関心を促進しないことが示された。一方で、自閉スペクトラム症傾向の非該当者においては、前頭葉機能の低下、特に遂行機能障害や脱抑制により子どもへの性的関心を促進していることが示された。したがって、自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々は、衝動性が高まった結果、注意が散漫し、なおかつ計画的に行動が実施できないことから、同年代との対人関係に困難をきたした結果、子どもへの関心が高まり、子どもへの性的関心を高めていると考える。

研究 2 では、自閉スペクトラム傾向の該当者においてもレイプ神話への信仰という認知の歪みが子どもへの性的関心を高めるのかについて明らかにした。自閉スペクトラム症傾向の該当者においては、レイプ神話に関する認知により、子どもへの性的関心を高めていることが明らかになった。一方で、自閉スペクトラム症傾向の非該当者においても、レイプ神話に関する認知により、子どもへの性的関心を高めていることが明らかとなった。したがって、レイプ神話に関する認知は、自閉スペクトラム症傾向の特徴を有するかどうかに関わらず、子どもへの性的関心を高める要因といえる。先行研究においても指摘されているように (Malamuth, 1981; 大湊他, 1985), レイプ神話は、レイプ行動を現実 to 促す一つの要因として働いており、多くの性犯罪者がレイプ神話と親和性の高い信念を持ち、それが子どもへの性的な関心とも関連しているといえる。

研究 3 では、自閉スペクトラム症の人々の衝動性や攻撃性が高いことから自閉スペクトラム症傾向の性犯罪者においても、これらの特徴の高まりが子どもへの性的関心を促しているのかを明らかにした。その結果、自閉スペクトラム症傾向の該当者における子どもへの性的関心には、攻撃性も衝動性も影響を及ぼさなかった。一方で、自閉スペクトラム症傾向の非該当者における子どもへの性的関心には、衝動的行動と自己制御の欠如、熟慮の欠如、身体的攻撃、短気、敵意が影響を及ぼすことが明らかになった。したがって、子どもへの性的関心には、衝動的行動と自己制御の欠如、熟慮の欠如、身体的攻撃、短気、敵意が影響を及ぼすといえるが、この傾向は、自閉スペクトラム症傾向の該当者ではなく、非該当者に顕著であるといえる。ゆえに、自閉スペクトラム症傾向の非該当者においては、衝動的な行動や自制心の欠如、ある物事について集中して考えることができないといった要因が、同年代との対人関係に困難をきたした結果、子どもへの関心が高まり、子どもへの性的関心を高めているといえる。また、攻撃性の身体的攻撃と敵意が子どもへの性的関心を高めることから、子どもに対しては暴力的な衝動や否定的な信念や態度を安易に向けやすいのかもしれない。ただし、短気は子どもへの性的関心を弱めていることから、子どもに対して怒りを向けることが少ない結果、好意の対象として子どもを認識しているのかもしれない。

研究 4 では、どの変数が子どもへの性的関心に影響するのかを自閉スペクトラム症傾向の該

当者、非該当者の各々において検討した。その結果、自閉スペクトラム症傾向の該当者における子どもへの性的関心には、レイプ神話に関する認知、計画性のなさ、身体的攻撃が影響を及ぼすことが明らかとなった。このことから、自閉スペクトラム症傾向の該当者においては、レイプ神話に関する認知や計画的に行動できず衝動的に振る舞う計画性のなさ、暴力への衝動が子どもへの性的関心を高めているといえる。一方で、自閉スペクトラム症傾向の非該当者においては、子どもへの性的関心にレイプ神話に関する認知、前頭葉機能障害の中でも脱抑制、攻撃性の短気が影響を及ぼすことが示された。このことから、自閉スペクトラム症傾向の非該当者においては、レイプ神話に関する認知や注意が散漫することが、同年代との対人関係に困難をきたした結果、子どもへの関心が高まり、子どもへの性的関心を高めていると考える。ただし、短気は子どもへの性的関心を弱めていることから、子どもに対して怒りを向けることが少ない結果、好意の対象として子どもを認識しているのかもしれない。

本研究では、子どもに対する性犯罪の原因を明らかにし、再犯防止に効果的な教育や治療を確立するためには、犯罪や非行に少なからず影響を及ぼしている精神疾患の影響を考慮することは重要であると考え、自閉スペクトラム症傾向と子どもへの性的関心との関連について検討してきた。また、子どもに性的関心のある自閉スペクトラム症の性犯罪者への介入は難しい現状となっていることから、自閉スペクトラム症傾向に関連すると予測される諸要因について検討した。さらに、レイプ神話が性犯罪を促進しているという指摘は、物事を字句通りにとらえてしまいがちな自閉スペクトラム症の人々にとって、レイプ神話が犯罪の遂行に非常に影響力のある情報となる可能性があることも検討した。しかしながら、本研究の結果により、自閉スペクトラム症傾向に該当する人々は、精神疾患やそれに関連する要因によって子どもへの性的関心を高めているわけではないことが明らかとなった。むしろ、該当しない人々において、前頭葉の機能障害や衝動性、攻撃性、レイプ神話に関する認知が子どもへの性的関心を高めていることが明らかとなった。したがって、自閉スペクトラム症傾向のような発達障害が性犯罪を促進しているとは言い切れず、性犯罪を犯した人々の中に発達障害の診断を受けた人々が存在したと捉える方が適していると考え。ゆえに、性犯罪の再犯防止や効果的な教育や治療を確立するためには、参加者の発達のな特徴に着目するのではなく、一般の人々、特に定型発達の人々を対象として、様々な心理的要因から検討していく必要があるといえる。

ただし、自閉スペクトラム症傾向の特徴が子どもへの性的関心を高めるのかについて検討した結果、以下のような結果となった。対象は、男性 1330 名 (平均年齢 34.2 歳, $SD = 11.6$) であり、多重共線性の VIF 統計量の値は、1.057~1.884 となった。結果は、社会的スキル : $B = -0.965$, $SE = 0.208$, $\beta = -.163$, $p = .000$, 注意の切り替え : $B = 0.652$, $SE = 0.277$, $\beta = .076$, $p = .019$, 細部への注意 : $B = 0.556$, $SE = 0.210$, $\beta = .073$, $p = .008$, コミュニケーション : $B = 1.537$, $SE = 0.248$, $\beta = .228$, $p = .000$, 想像力 : $B = 0.059$, $SE = 0.270$, $\beta = .007$, $p = .828$ ($F(5,1324) = 15.936$, $p = .000$) だった。この結果から、自閉スペクトラム症傾向の社会的スキル、注意の切り替え、細部への注意、コミュニケーションが子どもへの性的関心と関連することが明らかとなった。注意の切り

替えの困難さは関心のある物事に没頭し、さらに没頭しているときは他者の呼びかけに応えることも難しくなるという特徴があり、細部への注意は、こだわりの強さを示し、コミュニケーションは、他者に自分自身の意見を伝えることの困難さを示す (山脇・河野, 2018)。そのため、この結果は、自閉スペクトラム症傾向の特徴を持つ人々が、同年代の人々と没頭しているときにコミュニケーションがスムーズに実施できなかつたり、こだわりを理解してもらえない場合には、同年代の人々との対人関係が困難になり、子どもに対する関心を高める可能性があることを示す。一方で、社会的スキルの乏しさが子どもへの性的関心を抑制することから、社会的スキルが乏しくなると、対人関係など臨機応変に対応しなければならない状況において失敗することが多くなる。そのため、他者との接触頻度が少なくなり、その結果、子どもであっても他者への関心が弱まるのかもしれない。以上より、自閉スペクトラム症傾向の特徴によって子どもへの性的関心に異なる関連が示されたことから、自閉スペクトラム症傾向と子どもへの性的関心との関連について検討する際には、自閉スペクトラム症傾向の各々の特徴に着目する必要があるといえる。そのため、自閉スペクトラム症の全体的な特徴に基づいた診断の有無により子どもへの性的関心の発現を判断するのではなく、自閉スペクトラム症のどのような特徴に困難があるのかを捉え、子どもへの性的関心との関連を検討する必要があると考える。

<今後の課題>

以上から本研究では、性犯罪を行なった人々の中でも、特に自閉スペクトラム症傾向に該当しない人々において、前頭葉の機能障害や衝動性、攻撃性、レイプ神話に関する認知が子どもへの性的関心を高めていることを明らかにした。しかし、本研究では、自閉スペクトラム症の診断を受けた人々を対象としていないため、診断を受けた人々も同様の結果が示されるのかについては今後検討する必要がある。

また、自閉スペクトラム症と小児性愛との関連も検討することができなかった。そのため、今後は、自閉スペクトラム症の人々の子どもに対する性的認知が小児性愛と関係しているのかについても検討したい。

【文献】

American Psychiatric Association. 2013, Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (5th ed.).

Washington D. C: American Psychiatric Association.

安藤明人・曾我祥子・山崎勝之・島井哲志・嶋田洋 徳・宇津木成介・大芦 治・坂井朋子. 1999, 日本版 Buss-Perry 攻撃性質問紙(BAQ)の作成と妥当性, 信頼性の検討 心理学研究, 70, 384-392.

Baron-Cohen, S., Wheelwright, S., Hill, J., Raste, Y., & Plumb, I. 2001, The reading the mind in the eyes test revised version: A study with normal adults, and adults with Asperger syndrome or high

- functioning autism. *Journal of Child Psychology and Psychiatry, and Allied Disciplines*, 42, 241–251.
- Baron-Cohen, S., Wheelwright, S., Skinner, R., Martin, J., & Clubley, E. 2001, The Autism-Spectrum Quotient (AQ): Evidence from Asperger Syndrome/High-Functioning Autism, Males and Females, Scientists and Mathematicians. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 31, 5-17.
- Bumby, K, M. 1996, Assessing the cognitive distortions of child molesters and rapists: Development and validation of the Molest and RAPE scales. *A Journal of Research and Treatment*, 8, 37-54.
- Ekman, P. & Friesen, W. V. 1976, *Pictures of facial affect*. Palo Alto: Consulting Psychologist.
- Fazio, R, L. 2018, “Toward a neurodevelopmental understanding of pedophilia,”*The Journal of Sexual Medicine*, 15, 1205-1207.
- Franiuk, R., Seefeldt, J, L., & Vandello, J, A. 2008, Prevalence of rape myths in headlines and their effects on attitudes toward rape. *Sex Roles*, 58, 790-801.
- Hellemans, H., Colson, K., Verbraeken, R., Vermeiren, R., & Deboutte, D. 2007, “Sexual behavior in high-functioning male adolescents and young adults with autism spectrum disorder,” *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 37, 260-269.
- Hellemans, H., Roeyers, H., Leplae, W., Dewaele, T., & Deboutte, D. 2010, “Sexual behavior in male adolescents and young adults with autism spectrum disorder and borderline/mild mental retardation,”*Sex Disability*, 28, 93-104.
- 法務省法務総合研究所. 2019, 犯罪白書（令和元年版） 昭和情報プロセス
- 法務省法務総合研究所. 2018, 犯罪白書（平成 30 年版） 昭和情報プロセス
- 警察庁生活安全局少年課. 2022, 令和 3 年における少年非行，児童虐待及び子供の性被害の状況 警察庁
- 小橋真理子・井田政則. 2013, 改訂日本語版 BIS-11 の作成：信頼性と妥当性の検討. 立正大学 心理学研究年報, 4, 53-61.
- 近藤日出夫・淵上康幸. 2005, 自閉性スペクトル指数(AQ)を用いた高機能広汎性発達障害と非行との関連の検討 少年問題研究会(編) 発達障害と非行に関する実証的研究 日立みらい財団研究報告書
- 熊上 崇. 2006, アスペルガー障害と少年事件 十 一元三(編) こころのりんしょう a・la・carte, 特集アスペルガー障害 星和書店
- Malamuth, N, M. 1981, Rape proclivity among males. *Journal of Social Issues*, 37, 138-157.
- Matsumoto, D. & Ekman, P. 1988, *Japanese and Caucasian facial expressions of emotion*. San Francisco: Intercultural and Emotion Research Laboratory, Department of Psychology, San Francisco State University.
- Mogavero, M, C. 2016, “Autism, sexual offending, and the criminal justice system,”*Journal of Intellectual Disabilities and Offending Behavior*, 7, 116-126.
- 越智啓太. 2013, ケースで学ぶ犯罪心理学 北大路書房

- 大淵憲一・石毛博・山入端津由・井上和子. 1985, レイプ神話と性犯罪, 犯罪心理学研究, 23, 1-12.
- Ryan, K. M. 2011, The relationship between rape myths and sexual scripts: The social construction of rape. *Sex Roles*, 65, 774-782.
- 性障害専門医療センター SOMECE. “SOMECE について” 2006, <https://somece.org/somece.html>, (参照 2023-01-08)
- Sevlever, M., Roth, M. E., & Gillis, J. M. 2013, Sexual abuse and offending in autism spectrum disorders, *Sex Disability*, 31, 189-200.
- 田口真二. 2015, 女兒に対する性的興味を容認する態度と性的加害経験, 個人要因および児童ポルノ使用経験との関連. *法科学技術*, 20, 175-183.
- 田口真二・桐生正幸・伊藤可奈子・池田稔・平伸二. 2007, 男性用性的欲求尺度 (SDS-M) の作成と信頼性・妥当性の検討. *犯罪心理学研究*, 45, 1-13.
- 若林明雄・東條吉邦・Baron-Cohen, S・Wheelwright, S. 2004, 自閉症スペクトラム指数 (AQ) 日本語版の標準化: 高機能臨床群と健常成人による検討. *心理学研究*, 75, 78-84.
- 山脇望美・河野莊子. 2018, 自閉スペクトラム症傾向と攻撃行動との関連: アレキシサイミア傾向と攻撃性に着目して. *社会心理学研究*, 35, 99-109.
- 山脇望美・福井裕輝. 2019, 性犯罪者の自閉スペクトラム症傾向に関連する要因とは? 日本犯罪心理学会第 57 回大会.
- 吉川和男. 2010, 現代の生物学的・神経心理学的指標を用いた責任能力判定. *日本生物学的精神医学誌*, 21, 137-142.
- 吉住美保・上田敬太・大東祥孝・村井俊哉. 2007, 前頭葉機能に関する行動評価尺度 Frontal Systems Behavior Scale 日本語版の標準化と信頼性, 妥当性の検討. *精神医学*, 49, 137 - 142.